府立北野高等学校

資料2-4

大項目	小項目	今年度の	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己	成果指標	前任度室績	目標値	の見直しが必要 実績		自己 次年度の	評価審議会の評価	
1. 確かな学力の向上を図 ・小項目ではそくみだい力・ ・言題活用力・ ・とではカナラシー ・教育・カナラシー ・ 英語連用能力 ・ その他		取組方針 継続	校内外成果発表会の実施	校内外成果発表会の発表本数	校内588 校外23	校内610) 校内 6 % 校外 9	校内 ●課題研究 中間発表 □頭 (プレゼン) 発表 80 ●課題研究 展終発表 □頭 (プレゼン) 発表 168 ●学校設定科目 回願情報 理料発表 180 M計発表 186 ●学的電学 20(80人) ●即興型英語ディベート予選会 4 (13人) 校外 大阪サイエンスティ 1 次 5 (20人) 2 次 1 (3人) ●科学の甲子園 1 (8人) ●即興型英語 ディベート関西大会 4 (8人)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率				「国際情報」のアンケート「プレゼンファイルの作成技能が修得できた」、「プロセン発表の技能が何した」、「プラス全体としてプレゼンルベルが向上した。」、「ララスをはしてプレゼンレベルが向上した。 肯定の回答率 ラ 92.8% 学内留学アンケート「関本より人前で発表することに抵抗が少なくなった」「肯定的回答率 ⇒ 91.0% これらの平均 91.9%	評価 取組方針	コメント 「国際情報」、学内留学に係るアン ケートの生徒の肯定的回答率は、昨年度から引き続き非常に高い。昨年度から引き続き実施している外務省 中間が最後「EUがあなたの学校に やってくる」の肯定的回答率は昨年 度から対応した昇している。	評価 AA
	②英語運用能力	継続	学内留学講座の実施	参加者数	100人	80人 ※開講講師 5→4講師 80名に変 更	至 80人	O人 ビジネス講座(20人)、心理学講座(20人)、天文学講座(20人)、 環境学講座(20人)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	98.4%	95.0%	97.4%	学内留学アンゲート「以前より英語 でのコミュニケーションに抵抗がな くなった」及び「以前より英語によ るコミュニケーション能力を高めた いと思うようになった。」の肯定的 回答率の平均 ⇒ 97.4%	A 継続	コロナ福で制限が多い中、例年と同様高い成果を挙げたと考えられる。 取組みを継続したとしても、その内容等を常に見直しながら、引き続き 高い成果を期待したい。	
	③英語運用能力	充実	英語による講演・大学院留学生との交流会実施	参加者数	1129人	600人	580	●駐日欧州連合 出前授業「EUがあなたの学校にやってくる(11月10日)」121人 ●即興型ティベートデモンストレーション 1年生360人 ●英語集中セミナー 生徒 33人 ●グローバルリーダー酸成講座 66人(3月23日~27日予定)	В	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	88.5%	95.0%	90.6%	「EUがあなたの学校にやってくる」 肯定的回答率⇒98% グローバルリーダー養成講座 肯定的回答率⇒ 83.1% これらの平均 90.6%	B 充実		
II. 豊かな感性と、たくまく生きるための健康と体力はぐくむ	し ④違いを認め共に生きる力・紛争を を解決する力	充実	異文化理解教育の実施	海外の高校や大学等へ訪問した人数 と受け入れた人数の合計 (一日交流は含まない)	107人	115人	2人	渡航 受入 ●インド1人(5か月) ●マレーシア1人(5か月)	С	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	100.0%	98.0%	94%	留学生の2人の北野高校における異文化交流に対する青定的回答率→100% 留学生2人の受け入れに対するアンケートでの 肯定的回答率→87.4% これらの平均93.7%	B継続	コロナ禍のため本来予定していた取 組みが中止となったが、その中で も、部活動に対する生徒の肯定意見	
小項目(はぐくみだい力) ・違いを認め共に生きる力 ・共麻力	⑤共感力・協調性	再編	チームビルディング講座の実施	参加者数	320人	1年生全員	-	- 信泊研修チームビルディング研修の実施予定 ⇒実施できず(代替としてクラス対抗球技大会、クイズ大会を実施)	С	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	99.7%	98.0%	-	宿泊研修は実施中止(代替としてクラス対抗球技大会、クイズ大会を実施)	C 充実	は昨年度より高く、生徒同士のコミュニケーションの場として機能している。代替プログラムの実施など、取組みに工まな加ラーネになるとは	A
- 協調性 - 紛争を解決する力 学 校 独	⑥バランスのとれた豊かな人間性 の育成	継続	部活動の充実	部活動の加入率	94.6%	95.0%	97.2	2% 加入率 1年99.4% 2年94.7% 平均97.2% 加入人数 運動部 613人 文化部 391人 合計 1004人 延べ加入率 104.0%	A	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	88.2%	90.0%	97.7%	生活アンケート「部・同好会活動を 総合的に評価しますか」の肯定的回 答率(3学年の肯定的回答率を有効 回答数で割る)	A 継続	取組みに工夫を加え、さらなる生徒 同士のコミュニケーションの場を活 発化させてもらいたい。	
即 Ⅲ 高い志をはぐくみ、進 実現をめざす 「小項目(はぐくみたい力)」・規範整議 ・ 高い志・ その他	路 ⑦高い志を育む	継続	各界リーダーによる講演会や指導の実施	講演の回数及び講座指導回数	講演40回 指導65回	講演19E 指導47[] 講演4(回 指導8(● 「知的世界への冒険」 (1年対象) 1回×8種類 ● 「キャリアガイダンス」 (1年対象) 1回×12種類 ● 「キャリアガイダンス」 (2年対象) 1回×12種類 ● 「宇郎学教ガイダンス」 (2年対象) 2回×12種類 ● 「韓郎学教済を(2年対象) 国語1回、社会3回、英語25回、理科57回 ● 課題研究講演を (1年対象) 2回 ● 「全元にある「韓因」1回(川口加奈氏) ● 「Leave it! Live it!」1回(大川郁子氏) ● 「EUがあぶたの学校へやってくる」 1回 (3AX4字曲科学研究所副所長 藤本正樹氏) ● 「強力」を活かし「自分」を生かす 1回(松康 信一郎氏)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	97.2%	90.0%	99.7%	知的世界の冒険 100% キャリアガイダンス 100% 学部学科ガイダンス 99% これらの平均99.7%	A 継続	各界のリーダーの講演・指導の件数 が目標値及び前年度実績を上回りさ	
	⑧キャリア教育の推進	継続	若手研究者による学部・学科ガイダンスの実施 社会人による職業ガイダンスの実施	生徒の参加率	100%	100%	1009	0% 学部学科ガイダンス(2年対象)	A	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	95.5%	98.0%	99.0%	学部学科ガイダンスの肯定的回答率 ⇒99%	A 継続	らに充実した。その結果がアンケートの高い肯定的回答率に表れている。今後はこうした取組みが生徒にとのような影響を与えているのかを	AA
] [- 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 	⑤高大連携の推進	継続	大学におけるセミナー等への参加	セミナー等に参加しだ生徒数	723人	600人	68)	京都大学	C C	当該アンケートにおける生徒の肯定 回答率	93.5%	95.0%	96.3%	版大キャンパスツアーに関する肯定 的回答率⇒96.3%	A 継続	定量と定性の両面から分析するな と、さらなる取組みの充実に期待し たい。	
る	⑩授業力向上	継続	校内外の授業見学・研究協議の実施	授業見学・研究協議をした教員の割 合	96.7%	97%	98.3	3% 相互に授業見学を行った教員は98.3%。校内実施公開授業の中止2回。	A	当該アンケートによる生徒の肯定回 答率	90.3%	88.0%	93.0%	学校教育自己診断(生徒対象)「授 業は興味深く満足できるものであ る」の肯定回答率	A 継続		
小項目 (はぐくみだい力) ・授業力向上 ・教材開発	⑪若手教員の指導力向上	継続	他校と連携した研修講座の実施	指導力向上研修の実施回数	150	100	50	回 本校にて 公開研究授業実施 4回 (内駅 初任者 2人×1回、10年研2人×1回) 校外へ 研究授業参加 1回 (内駅 和炭高校 1人×1回)	С	当該アンケートにおける参加教員の 肯定回答率	100%	100%	100%	聞き取り調査	A 継続	コロナ禍のだめ予定していた取組みが一部できなかったものの、アンケートによる肯定的な回答率は高い水準を維持している。 高い水準を維持できる要因を分析	A
・その他 -	②授業力・指導力の向上	継続	保護者を含む外部への授業公開	保護者を含む外部からの見学者数	860人	350人	337	公開授業(保護者参加数)325人 内訳:前期 実施できず、後期(11月11·12·13日) 325人 公開研究授業 他校教員等参加数8人 学校訪問 彦根東高校2人、滋賀県教育委員会2人	В	当該アンケートにおける参加者の肯 定回答率	98.5%	95.0%	98.8%	保護者の授業公開後アンケートにおける肯定的回答率	A 継続	し、それらを他校に普及していく取 組みに期待したい。	
	③10校が共通で実施する学力調査	ī								学力調査の結果			評	価審議会資料3に明記		センター試験から大学入学共通テス	
V. 総合的な学力の測定	(4大学入学共通テストへの参加									大学入学共通テスト 5数科7科目受験者の割合	95.8%	97%	97.1%		A 継続	トに変更されたが、5教科7科目の 受験者の割合、得点率の平均はほぼ 目標値に達した。目標値に到達した 要因を改めて分析し、さらなる向上 を期待する。	AAA
	⑤大学入学共通テストの結果									5教科7科目受験者における得点率 の平均	81.8%	82%	81.3%		B 継続		
	⑥課題研究活動									学会や大学での研究会・研究紀要等 での発表数	1件	2件	8件	京都大学霊長類プリマーテス学会1 (5人)、核融合学会1(8人)、 天文学会ジュニアセッション 6 (30人)	A 継続	複数の分野の学会発表を行うなど、	
VI. 課題研究活動 共 通 の 取	⑪コンクール・コンテスト等の成 果									全国規模のコンクール・コンテスト 等の入責者数(「国レベル」には全 国大会出場者を含む)①府レベル② 国レベル	①6人 ②9人	①5人 ②5人	①9人 ②2人	①科学の甲子圏大阪大会 総合3位 実技1位 8人 ① 取扱蓄長費 1人 ②全国物理チャレンジ 銅賞1人 ②全国英作文コンテスト入費1人	B継続	課題研究活動に幅が加わっている。 WWL事業も活用し、さらなる課題 研究での発表にチャレンジしてもら いたい。	AA
組 VII. 英語運用能力	億英語外部検定試験									英語外部検定試験の受験 ①受験者数 ②取得スコア(級) (1) 英検2級以上相当 (2) 英検準1級相当		①360 ②(1)330 (2)120			C 継続	全体として英検の受験者は減ったことについて総括は必要である。今後、さらに高いレベルの資格取得を にす仕掛けを検討していっていただきたい。	С
	⑩スーパーグローバル大学(タイ ブAトッブ型)およびグローバル サイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1 浪 含む)	220人	200人	268人		A 継続	スーパーグローバル大学(タイプA	
	②進学実績									難関国立大学(東大・京大・阪大) 現役・浪人合格者数	164人	150人	163人	大学 (現・浪) 東大13 (6・7) 京大95 (60・35) 阪大55 (34・21)	A 継続	トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者は、目標 及び昨年度の実績を大きく上回っ た。また、難関国立大学への合格者 も含め、極めて高い進学実績を維持	AAA
WI. 進学実績		***************************************			 					0.0							
₩. 進学実績	②国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	182人	200人	185人		B 継続	することができている。この成果の 要因を分析するとともに、引き続 き、府のトップランナーとして飛躍 を期待する。	

「将来の社会貢献のために」というキーワードを生徒、教員が共有していることに北野高校の実践の意味、社会的ミッションの意味がある。WWL事業についてはコロナ禍の中、予定していた事業は満足にできなかったが、オンラインで国際会議を実施するなど一定の成果を上げている。進学実績も昨年度に引き続き素晴らしいが、高いレベルの教育力を維持していくための「知の継承」が課題。また、英語外部検定試験については、生徒により高みをめざすよう促す仕組み作りが必要である。大阪府のみならず日本を代表する公立高校として、さらなる躍進に努められたい。

府立豊中高等学校

資料2-1

事業	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 次年度の評価 取組方式	評価審議会の評価	am irr
■89	7,42	3382	取組方針	HAREL	AAMII B IA	SS口頭発表1本、	理科口頭発表 1	2年理科	Ancourse	評価	85-7-02.288	e Divine	XIII	> tox o / U+ nm	評価 取組万	オント	評価
	I. 確かな学力の向上を図 行所頂官(はぞくみだいか) - 言語活用力 ・ にで活用力 ・ 統解カリテラシー ・ 科学的ソフー ・ 発発薬用能力 ・ その他	①言語活用力・ICT活用力	継続	課題研究成果発表会の実施 (豊高プレゼンテーショ ン)	校内成果発表会の発表件数	ポスター発表59本 SG□頭発表 4本、 ポスター発表33 本、 能勢分校3本	ポスター発表50本 文科口頭発表4 本、 ポスター発表30 本、 他校発表3本	57本 2年文科 口頭発表 34本 他校口頭発表 3本 1年94本	「豊高プレゼンテーション」における課題研究の口頭発表	A プレゼンテーション能力が向上したと回答 した発表生徒の割合	85%	85%	85%	豊高プレゼンテーションの終了後にアンケートを実施	A 継続		
	, eous	②英語連用能力 科学的リテラシー 言語活用力	再編	各様コンテスト 及び英語即興型ディベート 活動への積極的参加	①全国大会参加数 ②府内及び近畿(西日本)等 地方大会参加数 ③ディベート活動参加回数	①7回 ②4回 ③121回	①100 ②50 ③1000	①120 ②70 ③960	() SSH生徒研究発表会 1組 JICA 「国際協力性又コンクール」360名 全国高校セフォーラム 1組 大教大作文コンクール 11名 日本地質学会第18回3コニアセッション 1組 即興型ディベート大会 1組 (参加帝副校を数のため選抜されず) 一視聴のみ参加 日本高校生Parlamentary Debate Union 大阪府大会 1組 WWL・SGH×探究甲子園 1組 電気学会以と19半研究発表会 1組 科学の牙 1組 高校生理研究発表会 1組 ジュニア職芸化学会2021 1組 (中止] 高校生生ジネスグランプリ 高校生生ジネスグランプリ 高校生生が高外表会 2 大阪けイエンスディ 2回 科学の甲子園 1組 生徒生物研究発表会 1組 GLHS合同発表会 1組 GLHS合同発表会 1組 (中止) 単一・サンマテオスピーチコンテスト 31・2年生の即興型英語ディベート	A 英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	93%	90%	93%	即興型ディベートが終了後に アンケートを実施	A 継続	「豊高ブレゼンテーション」では、発力の所体を実験が前年度ままた。 場合表数が前年度ままた。 場合が出ており、また、設置したブロジェソクタを活用するとなった。 たブロジェソクタをいたのできるなき しようとしており、かる生徒のア ンケートもに、アンケートをいった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 でいる。	A
يد		③英語運用能力	継続	英語リスニングセミナー	講習参加者数	314名	320名	269名	講習参加者数:269名	C 英語運用能力に自信がついたと回答した参加生徒の割合	92%	90%	92%	講習終了後にアンケート実施	A 継続		
が 独 自 の 取 組	II. 豊かな感性と、 たくましく生きるための ・健療と体れるはぐとす ・ 温いを減られたこと ・ 温いを減られた生きる力 ・ 共感力 ・ 温剛性	④協調性・共感力	再編	海外フィールドワークの実施	多加者数	15名	25名	33名	SSH.WWLともに予定していた 海外研修(シンガボール、ベトナム)は中止一代替案となる行事を計画 (SSH: 東京研修-中止) (WWL: 国内留学プログラム 30名) 3月SISC (Singapore International Science Challenge) に3名がオンライン参加	参加を通して、異文化の人とコミュニケー ションをとったり、意見を発表したりする 力が高まったと回答した参加生徒の割合 (新規)	-	95%	100%	プログラム終了後にアンケート実施	A 継続	海外研修は中止となったが、代 替の国内留学プログラムやオン ラインを活用した取組みは、参	A
知	- 紛争を解決する力 - 健康・体力 - その他	⑤違いを認め共に生きる力	継続	大阪大学の留学生との交流 会の実施	参加者数	1年生 360名	1年生 360名	1年生 360名	1年生360名がオンラインで実施	A 異文化について理解を深めることができたと回答した参加生徒の割合	100%	100%	100%	グループで調査してきた内容を英語で発表できた生徒の割合	A 継続	加生徒の肯定的回答の割合も高く、評価できる。	
瀬基盤 社会を	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、 進路実現をめざす 小項目(はぐくみたいカ)	⑥高い志をはぐくむ・規範意識	経続	地域交流活動、ボランティ ア活動の推進	活動人数	2年生全員	2年生全員	2年生全員	予定していた活動ができす。 修学旅行「感響学習」で2年生全員が地域交流活動を実施	B ポランティア活動に参加した生徒の ルーブリック評価	^	90%	90%	修学旅行「感響学習」に対するアンケートでの肯定的回答率	A 継続	講演会の回数については、制約 が多い中、目標値及び前年度実	
シリードする	・規範膨織 ・高い志 ・その他	⑦高い志をはぐくむ	再編	土曜セミナー等の実施	イノベーションセミナー(6回) 英語ディベートセミナー等の 合計実施回数	180	120	60	英語ディベートセミナーを6回実施 イノベーションセミナー:中止	授業以外の体験ができた・ 学びに対する意欲が増したと 回答した参加生徒の割合(新規)	-	90%	88%	プログラム終了後にアンケート実施	B 継続	績を上回ったことは、大変評価 できる。本来予定していた取組 みがコロナの影響で中止やプロ グラムの変更で対応せざるを得 みなかったが、修学旅行では地域	A
9人材の育成		8高い志をはぐくむ	經続	各界で活躍している方によ る講演会の実施	講演会の回数	260	250	330	1年/2年 進路講演会 2回 課題研究・グループDI講演 文料: 22回 理科: 7回 (Zoomにて各グループで実施) WWL 講演会 1回 大阪大学基礎工学部説明会 1回 (中止) 大阪大学講演会	A 目標を高くもって頑張ると回答した参加生徒の割合	96%	95%	95%	進路講演会、WWL講演会の肯定的回答率	B 充実	の方尺との交流の機会を設ける など工夫がみられ、生徒の肯定 的評価高かった。制約が多い中 で工夫された取組みは評価でき る。	
	小項目(はぐくみたいカ) ・授業力向上	②教科指導力の向上	113 696	①教科の垣根を超えた相互 の授業見学 ②授業改善に向けた教員研 修の実施	①研究授業の実施回数 ②校内での教員研修の回数	-	①50 ②50	180 260	①研究授業: 8回 ②牧内研修: 6回 『生徒の自律を促す授業づくりの会』を結成し研修を実施	A 学校教育自己診断における項目の 肯定的評価の割合	①91% ②88% ③86%		289%	①授業内容は自分の学習や発達に役立っている ②教材や指導方法に工夫が感じられる授業がある ③授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある	B 充実	評価のループリックを組織的に 検討・研究している取組みは非 常に評価できる。参加した教員 のアンケート結果からも検討会	AA
	- 教材開発 - その他	⑩課題研究力向上	新規	課題研究における評価方法 の検討	・評価のルーブリック 検討会議の回数を年間に2回実施	-	20	80	定期的にコア会議を実施	A ルーブリック作成を通じて指導力が向上したと答える教員の割合	-	75%	100%	コア会議に参加した教員(15名)アンケートの肯定的回答率	A 充実	議の手応えが伺える。組織的な 検討を継続していただきたい。	
		⑪10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果				評価審議会資料3に明記		大学入学共通テストへの変更の 影響も推測されるが、5教科7	
	V. 総合的な学力の測定	②大学入学共通テストへの参加								大学入学共通テスト 5数科7科日受験者の割合	79.3%	80%	85.4%	大学入学共通テスト 5教科7科目志願者の割合	A 継続	□ 科目の受験者割合が大幅に増加していることは評価できる。 □ 方、得点率80%以上で割合が目標を下回ったについて、要因を □ 分析するとともに、次年度のア	AAA
		(3)大学入学共通テストの結果								5教科7科目受験者における 得点率80%以上の者の割合	26.4%	26.5%	12.2%	大学入学共通テスト 5教科7科目受験者における 得点率80%以上の生徒の割合	C 継続	プローチに活かしてもらいたい。	
		④課題研究活動								学生TAによるルーブリック評価	3.5	3.0	3.6	課題研究におけるルーブリック評価の結果 SSH: 3.8 WWL: 3.4の平均値	A 継続	SSH・SGHに加えWWLを活用 して課題研究の多様性と質の高	
川 通	VI. 課題研究活動	③コンクール・コンテスト等の成別	Ę							全国規模のコンクール・コンテスト等の入 賞者数	全国レベ ル 3グルー プ	全国レベ ル 5グルー ブ		JICA「国際協力作文コンクール」特別学校賞 大教大作文コンクール最優秀賞 日本地学学会ノーセッション参加賞 高等学校Parliamentary Debate Union英語ディベート優秀賞 大坂府生苑研究兼委会 銀賞 SSH生徒研究兼委会 生徒投票賞 SISC Overall 1st runner up Award	A 継続	さがさらに向上している。コン クール・コンテストについて は、前年度実績を上回っている が、さらなる活躍を期待した い。	В
組	Ⅷ. 英語運用能力	够英語外部検定試験								CEFR B1レベルの生徒数(新規)		3年:6名	1年: 14 名 2年: 12 名 3年: 71	日本英語検定	A 充実	英検準1級、2級の合格者数が 目標値を大幅に上回り、英語運 用能力の向上が伺える。引き続 き、外部試験に積極的にチャレ ンジしてもらいたい。	AA
		⑪スーパーグローバル大学(タイプAトップ型) およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	7 f							スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数(1浪含む) 進路希望達成率			96名		C 継続	スーパーグローバル大学(タイ ー ブAトップ型)およびグローバ ルサイエンスキャンパスへの進	
	Ⅷ. 進学実績	(8.進学実績								(年度当初の進路希望達成率)	23%	25%	27.8%		A 継続	学者数、国公立大学現役進学者 「こついては、目標値を下回って おり、その分析をされたい。—	В
		⑩国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	141名	145名	130名		C 継続	方、年度当初の進路希望達成率 は目標値及び前年度実績を上 回っており、教員の粘り強い指 道性変形を含まる	
		⑩海外大学への進学								海外大学進学者数(1 浪含む)	2名	1名	0名		B 継続	導は評価できる。	
			ГЛ	ローバリサ会を	(無ムに洋頭オフ	はなのなけ	・」なかかっ	で小だかけ	い精神力」をめざしている。課題研究の進め方	- 内窓と准匁比道のシフェ	= 1, 1	<u> </u>	17 F	ノブキアハスニレけ証価ブキス 今	悠		

「グローバル社会を舞台に活躍する人材の育成:しなやかで心折れない精神力」をめざしている。課題研究の進め方・内容と進路指導のシステムがバランスよくできていることは評価できる。今後、令和2年度から継続して指定されたSSHの開発テーマにもある「地域に還元する取組み」に期待する。また、日常の業務を通して教員を育成する仕組みができているとともに、指導教諭を中心に「生徒の自立を促す授業づくりの会」を開催し、教員の授業力向上を進めている点は評価できる。豊中高校の改革は他の高校にとってもモデルとなるので、これらの成果の普及に力を入れていただきたい。

府立茨木高等学校

資料2-8

業 的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	己 次年度価 取組力	度の 評価審議会の評価 5針 コメント	評価
I	. 確かな学力の向上を図る	①言語活用力	継続	ディベートを取り入れた英語授業の実施	実施回数	8回 /講座	6回 /講座	7回 /講座	目標を達成した	В	【アンケートによる生徒の評価】 ディベートをすることで英語の表現 力が高まった	85%	80%	80%	目標を達成した		=, ,	01100
	小項目(はぐくみたい力) ・言語活用力 ・ICT活用力 ・誘解カリテラシー ・誘幹カリテラシー ・ 英語運用能力	②言語活用力・ICT活用力	継続	教科・委員会活動を通じたプレゼンテーション 能力の向上	A:「保健」の授業での ブレゼンテーション B:「1年行事委員会活動」での 生徒間のプレゼンテーション	A:1回 /生徒 B:10回	/生徒	A:1回 /生徒 B:4回	A:1年「保健」の授業でプレゼンテーションを 実施。2年「保健においては、健康の分野でデー ベートを実施し、その中で最低1回は発言する相 会を持たせた。 B:感染予防の観点から回数を減らし実施し た。	1	【アンケートによる生徒の評価】 A:授業を通じて自らの成長を 実感できた B:1年行事委員会に参加して 充実した活動ができた	A:85% B:未実施	90%		A:目標を大きく上回った B:目標を大きく上回った	4 継糸	のの、今後も積極的に活動機会をつ くっていっていただきたい。	A
	・その他	③基礎学力の向上	継続	進路目標達成のための基礎的教養や知識を高める図書の充実	図書館の開館日数の確保	204⊟	210⊟	183⊟	学校再開時より可能な限り図書館を 開館した。	В	生徒に対する図書館蔵書の貸出冊数 及び生徒一人あたりの図書購入冊数	貸出冊数 3024冊 購入一人 年間2.1冊	貸出冊数 3000冊 購入一人 年間2冊	貸出冊数 2109冊 購入一人 年間2.3冊	貸出冊数は臨時休校等の影響で目標を 達成できなかったが、生徒一人あたり の図書購入冊数は目標を達成した	3 再網	る。引き続き学校図書館を充実して いただきたい。	
	. 豊かな感性と、たくまし 生きるための健康と体力を	④共感力・違いを認め共に生きる カ	継続	生徒の人権委員を中心とした多文化共生・多様 性受容の取組み	実施回数	8回/3年 14回/2年 8回/1年	年5回/	12回/2年	1年、3年は臨時休業のため生徒主体に よる人権行事は中止。 2年:「環境問題と人権」	В	【アンケートによる生徒の評価】 様々な取組みを通じて、深く自国や 自分自身を見つめ直すことができた	3年:98% 2年:97% 1年:97%	90%	2年:87%	1年・3年は生徒主体による人権行事 は中止 2年は目標に近い値を達成	3 継紀	株育祭の開催方法等について、生徒 会が中心となり開催方法等を生徒同 士で議論して決める試みは、生徒の	
- I - Ii -	 	⑤課題発見力・紛争を解決する力	継続	生徒各種委員会の定例開催と討議内容の充実	開催回数	490	500	770	生徒議会:24回 各種委員会:53回	А	【アンケートによる生徒の評価】 「文化祭」「体育祭」等の学校行事 の取組は充実したものになっている	92%	90%	文化祭 91%	「体育祭」は中止 「文化祭」は目標を達成	3 継糸	自主自律の精神を育む上で非常に評 価できる	A
学校独自	・その他	⑥健康・体力をはぐくむ	継続	リーダー研修皿(クラブサポート事業)の実施	実施回数	110	100	80	部活動再開時より可能な限り実施した。 8回実施 参加生徒のベ92名	В	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動におい て有効活用できる	100%	90%	98%	目標を大きく上回った	* 継糸	生徒によるアンケート結果から評価	
	現をめざす	⑦高い志・規範意識をはぐくむ	継続	リーダー研修 I (リーダーとしての資質の獲得)の実施	実施回数	120	100	110	11回実施参加生徒のべ614名	В	【アンケートによる生徒の評価】 研修内容を今後のクラブ活動におい て有効活用できる	97%	90%	98%	目標を大きく上回った	4 継糸	************************************	
	N項目 (はぐくみだい力) ・規範意識 高い志 ・その他	8高い志・共生力をはぐくむ	継続	ボランティア活動の推進	参加した地域活動等の種類	50	50	13	制約がある中で、工夫して実施可能 なものについては、積極的に参加 し、取り組んでいる。		生徒ののべ参加人数	1058名	1040名	174名	制約がある中で、工夫して実施可能なもの については、積極的に参加し、取り組んで いる。	3 継糸	が、昨年度は中止となった卒業生講	AA
·····································		⑨学びの意味と自らの将来について深く考える	継続	学問発見講座・卒業生講座	実施講座数・実施回数	14講座 /年1回	20講座 /年2回	22講座 /年1回	学問発見講座は中止 卒業生講座22講座(中止となった 学問発見講座の代替も兼ねて講座数 を設定した)	A	【アンケートによる生徒の評価】 「学問発見講座・卒業生講座」は、 自分にとって満足できる内容であっ た	学問発見 講座 93%	90%	97%	学問発見講座は中止 卒業生講座97%	4 継糸		
Ē	7. 教員の指導力向上をめざ 「	⑩最先端の学びの研究	継続	大学等と連携した「最先端の学び」を知る取組 み及び教科・科目の研究会を通じて専門知識を 深める取組み	A:大学等と連携した取組みの回数 B:教科・科目の研究会等への 参加回数	A:170 B:540		A:580 B:240	Aは目標を大きく上回った Bは前期に研究会等が中止になった ため目標を達成できなかった	В	【アンケートによる生徒の評価】 この先生の授業を受けて、科目に対 する興味・関心が一層深まった	83%	85%	89%	目標を達成したE	3 継糸	会等への参加回数が減ったものの、 連携した取組み回数については大幅	
Ξ .	小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑪授業力向上	継続	バディシステムを用いた互見授業の実施	教員1人あたり年2回以上の実施	2.5回/人	2.0回/人	2.3回/人	目標を達成した	В	【アンケートによる生徒の評価】 信頼できる先生なので来年もこの先 生の授業を受けたい(後輩に受けさせたい)	89%	89%	93%	目標を達成したE	3 継糸	換がされたことは大変評価できる。 ICTを活用した意見交換の振り返り	A
		⑫授業力向上	継続	研究授業の実施	実施回数	210	200	1□ (34□)	Google Classroomを利用しての搭業研究意見交換34回。 対面の研究授業1回。		研究授業の教員のべ参加人数	98名	80名	7名 (214名)	Google Classroomを利用しての授業 研究意見交換のベ214名 対面の研究授業 7名。	4 継糸	を行い、互見授業や研究授業の在り 方を改めて議論して最適な方法を見 つけていただきたい。	
D 章		③10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果			言 平 ſ	価審議会資料3に明記			
V	7. 総合的な学力の測定	⑭大学入学共通テストへの参加									大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	87%	85%	92%	目標を大きく上回った	* 継続	大学入学共通テスト5数科7科目受験者の割合、5数科7科目の受験者の割合、5数科7科目の受験者の得点率ともに目標値及び前年度実績を上回っている、継続して高い実績を出していることが評価できる。 今後、目標値を見直すなど、さらな	AAA
		⑮大学入学共通テストの結果									大学入学共通テストの5教科7科目 の受験者の得点率	76%	74%	78%	目標を上回ったE	3 継糸	る飛躍を期待したい。	
7.	1. 課題研究活動	16課題研究活動									多様なテーマを扱う生徒の課題研究	23講座	22講座	24講座	目標を達成したE	3 継糸	と思うが、積極的なコンテスト等の 参加に期待したい。家庭科でのまち	В
共通の	1. 0本校送明17元/日報月	⑪コンクール・コンテスト等の成 果									全国青少年読書感想文コンクール・ 全英連 全国 essay contest等の入 賞者数	5名	5名	3名	第59回全国高等学校生徒英作文コンテスト: 入選1名 第7回食withレシビ甲子園:優秀賞1名 金沢大学第三回超然文学賞:優秀賞1名	3 総統	づくりの取組みなど他校にはない独 自の取組みを活用するなど、組織的 に課題研究の発展に取り組んでもら いたい。	Б
取 組 VII	I. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験									①CEFR B2レベル以上 保有者数(全学年) ②実用英語技能検定 2級以上保有者数(全学年)	① - ② 267名	① 15名 ② 300名	①25名 ②379名	①目標を大きく上回った②目標を大きく上回った	4. 総統	英様2級の保有者の実績の伸びが非常に高く、高い英語運用能力の育成が進められていることが非常に評価できる。英語によるディベートや発表の取組みをさらに充実させていってほしい。	AA
		⑲スーパーグローバル大学(タイ プムトッフ型)およびグローバル サイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学(タイプA トップ型) およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1浪 含む)	151名	150名	173名	目標を大きく上回った	* 継紀	スーパーグローバル大学(タイプA	
VII	I. 進学実績 -	②進学実績									東大、京大、阪大、神大の合格者数	130名	120名	150名	目標を大きく上回った	継続	トップ型) およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数、東 大、京大、阪大、神大の合格者数 が、目標値及び前年度実績を大幅に 上回り、高い実績を上げた。これら	AAA
		②国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	161名	_	191名	-	- -	の要因を分析しさらなる飛躍を期待 する。 ——	
		②海外大学への進学	1		1						海外大学進学者数(1 浪含む)	0名	_	0名			1	

総合評価

「高い志」を涵養するための卒業生講座では様々な分野から幅広く大学教授が講演に来ておられ、これまでの自主自律の精神の賜物であるとともに、生徒にとってロールモデルとなっており、大変評価できる。生徒が活躍する様々な行事がコロナの影響で中止となったが、今後はコロナ禍で生徒の主体性をいかに育むか工夫が求められる。また、バディシステムを活用した互見授業により授業力の向上を図っている点も評価できる。今後は地域の拠点校として、教員研修を他校とともに実施したり、生徒の自主性を育む取組を発信するなどが求められる。

A

府立大手前高等学校 向品評重の基準 C・・・計画以上 C・・・計画以上 C・・・計画以下

AAA ・・きわめて高い成果をあけている AA ・・・高い成果をあけている A ・・・成果をあけている B ・・・取り組みているかエ 天改善の余地がある C ・・・即唯の見直」が必要である

資料2-9

事業目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細 事価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度 <i>0</i> 取組方針	評価審議会の評価 オーロメント	評価
	I. 確かな学力の向上を図る	①言語活用力・ICT活用力	継続	校内成果発表会の実施	校内成果発表会の発表人数	770人	770人	720	まこと・のぞみ 2/1 LS発表会 2/6 S探発表会	①ブレゼンテーション能力が向上したと回答した発表生徒の割合 ②外部指導助言者等による肯定的評価割合	178% 290%	180% 290%	167%	①本校3年生実施SST調査表現力項 目平均値 ②コロナ感染症のため実施せず	В	継続	課題研究にコース制を取り入れてい	
	が項目(はぐくみだいカ) ・言語活用力 ・CTT活用力 ・読解カリテラシー ・ 英語運用能力 ・ 英語運用能力	②基礎学力の向上	継続	勉強合宿・補習・講習の実施	参加者数	1077人	1000人	1074	人数は1080一長欠者(6) 1・2年の講習は土曜の学習活動 3年講習は加えて平日午後の講習	5教科7科目受験者における得点率8 割以上の者の割合	34%	40%	27%	大学入学共通テスト受験者のうち 720点以上の生徒の割合	В	継続	ることが特徴的。コロナ禍で年度末 の校内発表会ができず指導助言をも らう機会がなかったのは残念であ る。次年度以降、課題研究の成果と 課題について、確認するとともに、	AA
	・その他	③英語運用能力	充実	ネイティブによる4技能向上に向けた授業実践	参加者数	1080人	1080人	1074	人数は1080 - 長欠者(6) 全学年でのネイティブ教員によるス ピーキング指導の実施	大学入学共通テスト英語平均点	136%	140%	135%	大学入学共通テスト英語筆記の全国 平均(河合塾発表値58.8点)に対す る大手前の平均79.6点の比	В	継続	常に改善していっていただきたい。	
	I. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④違いを認め共に生きる力・紛争 を解決する力	継続	・海外からの学校訪問の受入 ・海外スタディツアーの実施	・学校訪問受入者数 ・海外スタディツアー参加者数	受入0 派遣192 交流0	受入20 派遣120 交流50	54人	台湾オンライン交流新規実施 (15) オンライン研修参加者(3月実施) (フィリピン20、NZ・カナダ 8、USA11)	異文化について理解を深めることが できたと回答した参加生徒の割合	93.0%	93%	_	該当の海外研修は実施できず	_	再編	- 海外研修はできなかったが、オンラ	
	小項目(はぐくみたい力)・違いを認め共に生きる力・共感力・協調性・紛争を解決する力	⑤共感力・協調性	充実	①コーラス大会の実施 ②家庭科保育所実習の実施	参加者数	①1080人 ②360人	①1080人 ②360人	1074	により補元	この学校で良かったと回答した生徒 の割合	89.5%	90%	92%	学校教育自己診断 「学校生活に満足している」と答え た割合	А	継続	インを活用した海外交流等を実施できたことは評価できる。また、クラブへの延べ加入者は増加しており、 生徒同士のコミュニケーションの場の活性化に役立っている。	A
学 核 初 自	・健康・体力 ・その他	⑥健康・体力をはぐくむ	継続	クラブ活動や学校行事のための自治会活動の活 性化	①新入生オリエンテーションや部活 発表会の実施 ②水泳訓練の実施 ③マラソン大会の実施	①年間2回 ②360名 ③720名	①年間2回 ②360名 ③720名	①年2回 ②未実施 ③実施予算		クラブ加入率	90.0%	94%	90%	のべ加入者 1059⇒1089人へ増 加	В	継続		
<i>の</i> 取 組	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす 小項目(はぐくみたいカ)	⑦社会貢献意識を高める	継続	ボランティア活動の推進	ボランティア活動に参加する人数	280	300	30	自治会主催大阪城公園清掃 例年のその他のボランティアはコロ B ナにより実施されず	GLHS卒業生アンケート「学びの成果を将来社会の役に立てたい」とする項目の肯定的意見の割合	71%	75%	85%		A	継続	遅刻者については、目標値にわずかに到達しなかったものの、昨年度から大幅に減少したことは評価できる。ただ、GLHSとして、単に数だけでなく、何がよくないのかを考え	
	・ 規範 (はくくのだいが) ・ 規範 ・ 高い志 ・ その他	②規範意識	充実	挨拶の励行 時間を守るための取り組み	全教員の輪番による登校指導	毎日	毎日	毎日	全教員による5分前指導の実施 A	1年あたりの総遅刻者数	2663人	2000人	2052人		Α	継続	させることも規範意識の醸成に必要と考える。 またOB等による講演会についても、コロナ禍で制約が多い中、前年	A
知		⑨高い志をはぐくむ	充実	各界リーダーによる講演会の実施	OB等による講演会の回数	800	900	820	集中セミナー 79コマ 課題研究講演 1コマ 進路講演会 1コマ 阪大研修 1日	目標を高くもって頑張ると回答した 参加生徒の割合	88%	90%	85%	スーパーサイエンス・グローバル リーダーマインドセットテスト #28社会貢献意識の項目より	В	継続	度実績を上回ったことは評価できる。目標値を上回るよう新たな取組 みにもチャレンジしていただきた い。	
識基盤社会	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩進路指導力向上	継続	民間教育産業と共同したスキルアップ研修	①研修回数 ②研修参加者数	①15回 ②70人	①15回 ②70人	①9回 ②200人	(職員進路研修、模試反省会)	本校の進路指導は信頼できると回答 した保護者の割合	88.1%	87%	86.7%	学校教育自己診断「学校は進路に関する情報を積極的に提供している」 と答えた割合 前年度数値87.8%を修正	В	継続	研究授業の回数が大幅に増加してい	
云をリード	小項目 (はぐくみたいカ) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑪授業指導力向上	充実	研究授業、授業参観等の実施 (授業相互見学の実施)	①研究授業の回数 ②公開授業の回数	①69回 ②216回	①70回 ②220回	①98回 ②未実施		授業アンケート「授業内容に興味・ 関心を持つことができた」「授業を 受けて知識や技能が身についたと感 じている」二項目の全教員の平均値	88.3%	90%	90%	後期授業アンケート集計	В	継続	ることは評価できる。授業アンケート結果は高い評価を維持できており、継続的に授業研究を組織的かつ継続的に実施してもらいだい。	Α
- する 人材		⑫課題研究指導力の向上	継続	オール文理による全生徒への課題研究の指導の 充実	①担当者会議の実施 ②全生徒の二年の発表会の実施	①20回 ②計画通り 実施	①20回 ②計画通り 実施	①20回 ②実施予算	まという という という という という という という という という という	先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っていると回答した生徒の割合	85.1%	85%	85%	後期授業アンケート質問5「先生は 教科書の他、役に立つ教材やICT機 器などを効果的に使っている」の全 教員の平均値	В	継続		
の育成		③10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果		T	評任	面審議会資料3に明記	I	ī	- 5教科7科目受験者の割合は前年度	
	V. 総合的な学力の測定	(9大学入学共通テストへの参加								大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	86.8%	90%	88%	317/359	В	充実	実績を上回ったが、目標値に届かなかった。得点率8割以上の受験者の割合は、目標値及び前年度実績を下回った。原因を分析し、改善に役立ててもらいたい。	AA
		⑮大学入学共通テストの結果								5教科7科目受験者における得点率8 割以上の者の割合	34%	35%	27%	センターテスト受験者のうち 720 点 以上の生徒の割合	В	充実		
	VI. 課題研究活動	⑥課題研究活動								全国規模での大会の発表者数	44人	35人	20人	マスフェスタ16名 SSH全国発表4人	В	継続	コロナによる影響もあるが、昨年度から全国規模での大会の発表者数、コンクール・コンテスト等の入賞者数が大きく減少した要因について分	В
力 道 の 取		⑪コンクール・コンテスト等の成 果								全国規模のコンクール・コンテスト 等の入賞者数	①府レベル 18名 全国レベル 3名	①府レベル 20名 全国レベル 5名	①1名	①学生科学賞1名	С	継続	析されたい。課題研究をコース制にして系統的に実施している成果を、 積極的にコンテスト等で発揮してい だだきたい。	
AL AL	呱. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験								GTECスコア690点(CEFR A2 相当)以上 100%取得の維持	100%	100%	100%		A	継続	実績を維持している点は評価できる。今後、目標値の設定を見直し、 より高レベルな資格等にもチャレン ジを促す仕掛けを検討いただきた い。	AA
		⑨スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学								スーパーグローバル大学(タイプA トップ型) およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1浪 含む)	133人	135人	121人		В	継続	ースーパーグローバル大学(タイプA	
	Wm. 進学実績	②進学実績								進路希望達成率(第一志望への合格率)	41%	43%	47%	164+防3/359人	A	継続	トップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は目標値を下回ったものの、進路希望達成率、国公立大学現役進学者数については、目標値及び前年度実績を上	AAA
		②国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	153人	155人	164人		A	継続	には、日保温及び町千足大幅を上 回っており、評価できる。この要因 を分析し、さらなる飛躍を期待す る。	
		②海外大学への進学					-			海外大学進学者数(1 浪含む)	1人	2人	O人			継続		
			全ク	ラス文理学科になった	ことに伴い実施し	た課題	息研究(カ2ニ]ース制は一定の成果	か見られ評価でき	<u>්</u> ල්ං ද්	う後さ	うなる	6フログラム充実の	りた	<u>-</u>		

総合評価

め、適宜改善していただきたい。教員の研修を重視し、教科を超えた授業見学も増えていることも評価できる。また、コロナの影響で他校が 行事をあきらめる中、様々な工夫をすることで行事を行ったが、生徒の満足度も高く受験や日々の学習へのモチベーションアップにつながっ たと考えられ評価できる。一方、コンクール・コンテスト等への出場数が大幅に減少している原因を分析し、改善願いたい。

Α

評価審議会 評価の基準

AAA ・・・きわめて高い成果をあげている AA ・・・・高い成果をあげている A ・・・・成果をあげている B ・・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある C ・・・取組の見直しが必要である

資料2-5

 ・自学自習力 ・言語活用力 ・ICT活用力 ・コミュニケーション力 ・表現力 ・科学的リテラシー ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 	継続継続	学習強化日と英語コミュニ の実施	ニケーション集中講座	自学の取組みにおける生徒の自己評													
・コミュニケーションカ表現力・科学的リテラシー・違いを認め共に生きるカ	継続	0		価	93%	80%	94%	英語コミュニケーション集中講座 課題研究 の手法を学ぶと共に生徒のニーズを満たすも のであり、高い満足度となった。	b A	英語コミュニケーション集中講座の 取組についての生徒の評価(肯定的 意見)	84%	90%以上	95%	入学時より国際交流の取組みに興味を持つ生徒 は例年より目立つ傾向にあり、少人数による英 語コミュニケーション講座の内容が生徒の要望 に合致した結果、高い満足度となった。	A 継続	- 英語コミュニケーション講座につい	
違いを認め共に生きる力		ブレゼンテーション大会の	の系統的実施	参加人数	1080名	720名	2520名	8/73年生課題研究まとめ発表会 9/182年生課題研究中間発表会 11/191年年情報科フレゼン大会 1/14課題研究成果表会 2/4英語スピーチコンテスト	A	各種プレゼン大会に向けての取組に 対する生徒の評価(肯定的意見)	92%	90%以上	90%	学校教育自己診断の「輟高では、授業やその他 の活動で生徒の発表する機会が多いとおもいま すか」の肯定率より	A 継続	英語コミューションの時座についま ては昨年度から満定度が大幅に改善 しており、評価できる。 探究ラボに対する肯定的な意見は引き続き高いが、今後、探究ラボ生が 他の生徒へどう影響を与えるかなど	A
	継続	「探究ラボ」による科学的	的リテラシー育成	取組メニューの数	20個	1 0個	11個	阪大SEEDS(3名),京大ELCAS,オンライン派 外研修、SSH生徒研究発表会,FESTAT(2名) 大阪サイエンスティ(8チーム26人),近大原 力研究所見学,理系女子,数学オリンピック(3 名),日本数学コンテスト(1名),大阪サイエン ステイ2部	, 子 _	「探究ラボ」の生徒による活動への 評価(肯定的意見)	100%	90%以上	100%	校内での探究活動(基礎実験、討論やプレゼン などを含む)を実施、校外での様々なコンクー ルにも積極的に応募している。	A 継続	分析されたい。	
・ 探窓力・ 協調性	継続	海外修学旅行及び海外から 国際交流	らの訪問者受入による	修学旅行全般についての生徒の評価 (肯定的意見)	97%	90%以上	国内修学旅 行に変更 98%	新型コロナウイルスにより国内修学旅行に変更 海外からの受け入れ等も実施できす。	变	国際交流に対する生徒の評価(肯定 的意見)	97%	80%以上	98%	修学旅行の生徒アンケートの肯定率より。 沖縄修学旅行に変更となったが、プログラム内 容もよく検討され生徒の満足度は高かった。	A 継続		
・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性	経統	海外研修(オーストラリフ 際交流プログラムの充実		参加人数	44名	70名以上	525名	新型コロナウイルスにより.オンラインによる オーストラリア・台湾との交流・海外研修・ 語学研修を実施	నె • —	海外研修参加生徒によるプログラム に対する評価(肯定的意見)	100%	90%以上	87%	学校教育自己診断の「本校の国際交流の取組み についてどう思いますか」の肯定率より。 実際に訪問して得られる経験に比べるとオンラ インのプログラムでは満足変は低くなるが、 オーストラリアとの定期的なオンライン交流、 活を機続するプログラムを提供し、一定レベル の満足度を得られた。	A 継続	海外へ修学旅行や研修にいくことが できない中、代替プログラムをオン ラインで実施するなど、結果的に目 標値を上回ることができ、より多く の生徒が語学研修に参加できたこと は大変評価できる。	A
・協調性 ・健康・体力 ・リーダー育成	継続	充実した部活動の維持		部活動の参加率	96%	90%以上	98%	臨時休業、分散登校などの影響により1年生の入部状況が危惧されたが、例年以上の参加率となった	E A	部活動による入賞件数	95件	60件以上	37件	山岳郎・写真郎・パドミントン郎・水泳郎・囲 暮間行会が近畿大会出場。軽音楽部グランプリ 大会出場。山岳郎は全国大会にも出場。その他 府下の大会で上位入賞多数。 大会そのものが中止されるなどの影響を受けた が、上位大会への進出などよく健闘した。	A 継続		
・進路実現 高い志	継続	飯盛セミナーの実施		講座数と参加人数	4講座 623名	10講座 400名	7講座 461名	学」を実施。国際協力は2回講演。		参加生徒によるプログラムに対する 評価(肯定的意見)	97%	90%以上	92%	多岐にわたる講座内容により、原則1講座の受 講であるが、2講座以上を受講する生徒もお り、2年生が受講するなど生徒の満足度は高 かった。セミナー後アンケートの肯定率より。	A 継続	飯盛セミナーについて、昨年度より	
・進路実現 高い志	継続	大学研究室訪問(東大・京	京大・阪大・神大)	参加人数	375名	300名以上	阪大ツアー 120名	阪大ツアー120名、新型コロナウイルスに より研究室訪問は中止し、本校卒業の大学 1・2年生による「進学体験記」という大学 紹介冊子を作製し自由閲覧とした。閲覧者多 数。	_	参加生徒によるブログラムに対する 評価(肯定的評価)	96%	90%以上	95%	学校教育自己診断の「輟高では将来の進路や生き方について考える機会がありますか」の肯定率より	A 継続	価できる。また、満足度は前年度を 下回ったものの、高い水準を維持し ている。さらに充実できるようプロ グラムについては適宜見直しいただ	A
・規範意識とリーダーの資質向上	継続	①登校指導の実施 ②アドプト・ロード・プロ活動の取組み	コグラム及び地域清掃	①実施日数 ②のべ参加者数	①180日 ②616名	①160日 ②250名	①165日 ②588人	①登校指導は毎日、②アドブトロードは週に 3日継続的に実施(1日8人で担当)	A A	積極的に挨拶していることへの生徒 の自己評価(肯定率)	92%	90%以上	90%	学校教育自己診断の「学校生活において挨拶を している生徒が多いと思いますか」の肯定率より	A 継続	3/EV 10	
教員力の向上	継続	研修の系統的実施及びメン の相互育成	ソタリングによる教員	研修実施回数と参加人数	年7回 225名	年3回 150名以上	年 8 回 537名	スキルアップ研修(60人)。 オンライン授業 研修3回(200人)。人権研修(68+67+71 人)、将来構想検討委員会(71人)	A	研修に対する教員の評価(肯定的意 見)	93%	80%以上	96%	人権研修は、同和問題と外国人問題を取り上げる。	A 継続		
・初任者の指導力向上	継続	初任者の指導力向上のため	かの取組み	初任者ミーティング実施回数	120	120	120	各分学長やミドルリーダーが講師となり、杉 内初任者研修を実施。2年目の教員もメン ターとして適宜参加し、意見交換を行っている。	Α.	初任者ミーティングに対するアン ケートや感想による教員の評価 (肯定的意見)	100%	90%以上	100%	初任者ミーティングにメンタリングの要素を入れており、充実が図られている。	A 継続	も増加し、授業改善に向けた組織的 な取組みが実施できている。研修を 受けた教員の肯定的回答率も高いこ とも評価できる。引き続き、将来構	A
・教科指導力向上 ・教材開発	継続			①実施回数 ②取組み教員数の割合	①15回 ②83%	1100 280%	①12回 ②78%	教科代表者が行う研究授業を順次、実施。初 任者の研究授業も実施。	A A	授業力向上に関する学校教育自己診 断の評価(肯定率)	91%	90%以上	91.0%	学校教育自己診断の「教え方に様々な工夫をしている先生が多くいますか」の肯定率より。	A 継続	を期待する。	
③10校が共通で実施する学力調査										学力調査の結果			憲平 位	価審議会資料3に明記		大学入学共通テスト5教科7科目受	
(4)大学入学共通テストへの参加										大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	75.3%	80%	84.0%	5 教科7科目受験者298名 3年在籍者数 355名	A 継続	験者の割合は、目標値及び前年度実績を上回った。一方、得点率80%以上の割合は目標値及び前年度実績を下回っており、その要因の分析するとともに、さらなる飛躍を期待し	AA
⑤大学入学共通テストの結果										大学入学共通テスト5教科7科目受験者の得点率80%以上	26%	25%	21%	得点率80%以上 61名	B 継続	たい。	
⑥課題研究活動										外部でのポスター、プレゼン発表数	38グルー プ	15グルー プ	21グルー ブ	海外オンライン発表会(2班),SSH生 徒研究発表会(1班),FESTAT(1班× 2) 集まれ!理系女子(1班),OSD(8 班),サインバイ WWL ALクラス (2 名) GLHS合同発表会(4名) TSS (4名)	A 継続	コンクール・コンテストの入賞者数 が大幅に増加した。多様な分野のコ ンテスト等に参加し出場し実績を残 すことで、課題研究活動の成果に直 結した。また、外部でのポスター、	AA
⑪コンクール・コンテスト等の成果										外部のコンクール・コンテスト入賞 者	8件7チー ム 33名	入賞10名	40名十個	アコンテストオーディエンス賞(2名)	A 継続	ブレゼン発表者数は、前年度実績から下回ったものの、オンラインで海 外の発表会に参加するなど、幅広い 課題研究活動は評価できる。	
⑱英語外部検定試験										各種英語外部検定試験において CEFR ①B2レベル ②B1レベル	①3名 ②88名	① 5名 ②50名	① 91名 ②248名	英語検定合格者数	A 継続	CEFRのB1・B2両方で目標値及び 前年度実績を大きく上回った。より 高いレベルの資格や級にチャレンジ する仕掛けづくりも検討いただきた い。	AA
⑩スーパーグローバル大学(タイ プAトップ型)およびクローバル サイエンスキャンパスへの進学										スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1 浪 含む)	98名	90名	91名	SGU,GSCを意識しているわけでは ないが、結果的に多数の合格が出 て、目標値を上回った。	A 継続	フーパーガローバリナ器(カノディ	
②進学実績										難関3国公立大学(京大・阪大・神大)現役・浪人合格者数	82名	80名	72名	入試改革元年であり、安全志向が強 まったため、神戸大学の合格者数が 減少した。	B 継続	トップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数は、目標を上回っている。また、国公立大学現役進学者数は前年度実績を大き	AAA
②国公立大学への進学										国公立大学現役進学者数	143名	_	170名	安全志向、現役志向が強まる中で例 年より大市大、大府大の合格者が増 加した。後期試験まで努力を続け合 格者数を大幅に伸ばした。	A 継続	く上回り、実績を上げた。 学後の人 試改革の動向にもより注視し、継続 して実績を上げられるよう組織的に 対応していただきたい。	
②海外大学への進学										海外大学進学者数(1 浪含む)	1名	1名	0名	新型コロナウイルスの影響を受け、 海外進学者はなかった。	— 継続		
	・健康・体力 ・リーダー育成 ・進路実現 高い志 ・進路実現 高い志 ・機範意識とリーダーの資質向上 教員力の向上 ・初任者の指導力向上 ・教材開発 ③10校が共通で実施する学力調査 ④大学入学共通テストへの参加 ⑤大学入学共通テストの結果 ⑤課題研究活動 ①コンクール・コンテスト等の成果 ③要語外部検定試験 ③スーパーグローバル大学(タイプイト・プローバルサイエンスキャンパスへの進学 ②進学実績 ②国公立大学への進学 ②国公立大学への進学	 ・健康・体力 ・リーダー育成 ・進路実現 高い志 継続 ・進路実現 高い志 継続 ・規範意識とリーダーの資質向上 継続 ・初日者の指導力向上 継続 ・初日者の指導力向上 継続 ・初日者の指導力向上 継続 ・初日者の指導力向上 継続 ・310枚が共通で実施する学力調査 (大学入学共通テストへの参加 (5大学入学共通テストへの参加 (5大学入学共通テストの結果) ・6課題研究活動 (6) (7) (7) (9イプインタール・コンテスト等の成果 ・10 (1) (1) (1) (1) (2) (1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	・健康・体力 ・リーダー育成 ・進路実現 高い志 ・進路実現 高い志 ・機続	# 健康・体力・リーダー育成	・健康・体力 ・リーダー育成 ・進路実現 高い志 接続	・養殖・体力・育成 根核 力素した形活動の維持 部活動の参加率 96% 8 ・進路実現 高い面 根核 新産セミナーの実施 周座数と参加人数 4月度 ・進路実現 高い面 根核 大学研究室訪問(東大・京大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大・原大	・養寒・味力。 ・養寒・味力。 ・養寒・味力。 ・養養・味力。 ・養養・味力。 ・養養・味力。 ・養養・味力。 ・養養・味力。 ・養養・味力。 ・養養・食力。 ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・食力・・ ・養養・食力・ショ・・ ・養養・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・食力・	・機株・名力。	金融 本名 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本	・ 記事・	通数	・	通数性の	本語の	1985年 日本語	日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日	日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日

総合評価

| 母校愛が強く、地域にも愛され地域に根差している。廊下のボワイドボードに何けなく数字の問題が出題されていたり、過去の課題研究の報告書が自由に閲覧できるような仕掛けを行うなど、学びの充実のための細やかな工夫がなされている点は評価できる。将来構想委員会をはじめ、校長による参加型の組織づくりが「畷高」をもっと良くしたいという教員の思いを結集させるうえでどう作用するか注目したい。

AA

府立高津高等学校

評価審議会 評価の基準 つ 取別

AAA ・・・きわめて高い収集をあげている AA ・・・高い収集をあけている A ・・・収集をあっている B ・・・取り様んでいるが工夫改善の余地がある C ・・・取組の見直しが必要である

資料2-6

事業目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針 取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細 自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価コメント	評価
	I. 確かな学力の向上を図る	①学習方法の定着 読解カリテラシー	継続 ①1年生学習合宿 ②自習室(月~木の夜8時まで)の開放	①参加生徒数 ②自習室の年間開放日数	①1年全員 ②100日	①1年全員 ②80日	①中止 ②91日	①例年4月に実施していたが、コロナ 禍のため中止。 ②自習室は、コロナ禍のため6月下旬 からスタート、91日開放した。	А	①高校での学習方法が学べたと回答 した生徒の割合 ②自習室の1日当たりの平均利用人 数	①97% ②55人	①95% ②70人	①- ②67人	①4、5月オンラインで授業やHRを実施し、1年生は高校での学習方法等について学ぶことができた。 ②前年度に比べ積極的に活用された。	継続	全クラス文理学科となり、課題研究	
	小項目 (はぐくみたいカ)	②言語・ICT活用力	①校内課題研究発表会②課題研究(LCⅢ) 論文の作成	①参加生徒数 ②課題研究(LCⅢ)の論文数	①約1,300人 ②59本	①1,300人 ②110本	①延期 ②111本	①例年1月下旬に実施していたが、コロナ禍のため次年度の早い時期に延期。 ②昨年度を大きく上回り、論文は111本作成。	А	課題研究の取組みが充実していたと 回答した生徒の割合	97%	95%	84%	成果指標には達しなかったが、現3年 生から全員が文理学科となったのに伴 い、生徒全員が課題研究に取り組むシ ステムが構築され、取組み内容も充実 した。	継続	(LCⅢ) の論文数が前年度から大幅に増加したが、これを見こし周到に準備をされてきたことは評価できる。一方で、課題研究の取組みの満足度は目標値及び前年度実績を下	A
	- 科学的リテラシー - 英語運用能力 - その他	③英語運用能力	①英語コミュニケーション講座(KITEC) 11 年全員および発展コース(1・2年希望者)]②オーストラリア語学留学 ③国際交流センター留学生との交流	参加生徒数	①1・2年 391人 ②4週間3 人、2週間15 人	①1・2年 400人 ②12人 ③10回	①1年360人 ②中止 ③20回	①8月に1年全員360人で実施。□□ ナ禍のため発展□□ス(1・2年希望 者)は中止。 ②□□ナ禍のため中止。 ③□□ナ禍のため中止。 ③□□サ福の目からスタートし、20 回実施した。	A	それぞれの取組みを通して、英語等に対する興味・関心、運用能力が向上したと回答した生徒の割合	①1年97% 発展99% ②100%	①98% ②100% ③80%	①93% ②- ③91%	①コロナ禍の中であったが、日程を工 夫して1年生全員で実施できた。 ③コロナ禍で海外研修が中止となる 中、新規に国際交流センター留学生と の交流をスタートした。今後も継続し て実施したい。	継続	回ったいるため、その要因について 分析し、改善に生かしていただきた い。	
	I. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④健康・体力、協調性	三部会(生徒・教員・自治会)が主体となった 記念祭(文化祭・体育祭)の実施	三部会および記念祭各委員会の生 徒構成員の延べ人数	311人	300人	310人	コロナ禍の中、生徒アンケートにより 記念祭(文化祭・体育祭)を例年と実 施時期を変更して10月に実施した。企 画運営等に多くの生徒が関わった。	A	記念祭に満足したと回答した生徒・ 保護者の割合(「分からない」を除 く)	生徒97% 保護者96%		生徒97% 保護者97%	コロナ禍の中、例年とは異なり10月 に配念祭(文化祭・体育祭)を実施。 感染対策などで三部会が中心となって 実施形態等も工夫し、生徒の主体的で 活気ある行事となった	継続	コロナの影響により中止とせざるを 得ない取組みもあったが、その中で も東大阪支援学校とのビデオ交流や 学校全体で工夫を疑らした記念祭は	•
ė i	「小項目(はぐくみたいカ) ・違いを認め共に生きるカ ・共感カ ・協調性 ・総事を解決するカ ・健康・体力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	⑤違いを認め共に生きる力、共感 力、協調性	①高津キャラバン隊(ボランティア活動) ②支援学校との交流	①参加クラブ数 ②参加生徒数	①全クラブ ②生徒自治 会・クラブ3 団体	①全クラブ ②生徒自治 会・クラブ 3団体	①- ②生徒自治 会・クラブ6 団体	①コロナ禍のため中止 ②2月に生徒自治会およびクラブ6団 体でビデオを作成し、東大阪支援学校 へ届けた(ビデオ交流)。	А	それぞれの取組みが有意義だったと 回答した生徒の割合	①96% ②100%	①95% ②95%	①- ②100%	①はコロナ禍のため中止。 ②はコロナ禍でビデオ交流の形となったが、継続して実施できたことはとて も有意義であった。	継続	アンケート結果に顕著な変化はないが、評価できる。制約がある中で、 取組みの実施形態について検討を重 ねていただきたい。	A
E		⑥高い志	①大学等外部団体の公開講座・実習等への参加 ②外国の高校等との交流・発表 ③国内(九州)サイエンスツアー	①参加生徒数 ②参加生徒数、実施日数 ③参加生徒数、実施日数	①2,122人 ②台湾13人3 泊4日 ③国内2泊3 日で九州37 人	①1,500人 ②15人、3 泊4日 ③30人、2 泊3日	①1,827人 ②- ③-	①コロナ禍の中、オンライン参加 (1,297人) など工夫して実施した。 (2台湾サイエンスツアーはコロナ禍の ため中止。 2月に海外連携校と「東ア シア高校生オンライン交流」を実施。 ③九州サイエンスツアーはコロナ禍の ため中止。	А	それぞれの取組みが有意義だったと 回答した生徒の割合	①96% ②100% ③100%	①95% ②95% ③100%	①96% ②100% ③-	①コロナ禍で集合・対面型の行事の多くが中止となる中、オンライン参加などの努力と工夫が見られた。 ②2月に台湾や韓国の海外連携校と「東アジア高校生オンライン交流」を実施。国内外で80人程度の生徒が参加し、満足度も高かった。	継続	海外研修については、代替プログラ ムをオンラインを活用して積極的に 実施できたことは評価できる。	A
		⑦進路実現	(①土曜講習 (オンライン講習を含む) の実施 ②体験型進路学習 (職場訪問、大学研究室訪 問) の充実	①実施日数 ②職場、大学研究室の訪問先数	①1年·2年 19日、3年 21日 ②職場63力 所、研究室 52力所	日以上	①1年·2年 19日、3年 21日 ②職場63力 所、研究室 46力所	①コロナ禍の中、オンライン実施も含 み、ほぼ例年通り実施できた。 21年職場訪問は例年7月に実施して いたが、12月に変更して実施。2年大 学研究室訪問は11月に実施。	А	それぞれの取組みが有意義だったと 回答した生徒の割合	①73% ②96%	①73% ②90%	①83% ②97%	講習については、コロナ禍の中、オン ライン講習や対面講習を工夫し、目標 値を大きく上回った。体験型進路学習 も日程や方法を工夫し、生徒には有意 義な取組みとなった。	継続		
知識基盤	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑧授業指導力向上	継続 研究授業・研究協議、授業参観の実施	各取組みの実施回数	研究授業10回 研究協議10回 授業参観82回	研究協議10回	研究授業10回 研究協議10回 授業参観78回	カ	А	本校の授業は、知的好奇心を抱きや すいなど、内容が濃いと回答した生 徒の割合	79%	75%	86%	新学習指導要領や大学入試改革を見据 えて、教員は授業改善に取り組んでい る姿勢が見られ、指標も昨年度の数値 を大きく上回った。	継続	授業アンケートの結果など授業に対	
社会をリ	小項目(はぐくみだい力) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	⑨進路指導力向上	継続 民間教育産業と連携した進路指導研修	研修回数 研修参加教員数	15回 208名	15回 200人	14回 190人	コロナ禍で開催数が減ったが、適切な時期に研修を行い、研修で得た情報をもとに、進路指導や授業・講習の改善を図ることができた。	А	本校の教職員は生徒の進路実現に向けて積極的に取り組んでいると回答 した生徒の割合	88%	85%	90%	「高津進路プログラム (KSP)」が 定着し、コロナ禍の中、感染防止の工 夫をしながら個々の取組みを実施し た。	継続	する生徒の肯定的な回答率が高い水準で維持できている。今後コロナ禍でにT環境が整備され授業が変わろうとしている。これまで構築してきた「高津授業メソッド」をさらに共	AA
ードする人		⑩教材開発、授業効果の向上	①補助教材(オリジナル)の工夫 ②シラバス到達目標のブラッシュアップ	①補助教材にさらに工夫を凝らし た教員の割合 ②実施教科数	①100% ②全教科	①100% ②全教科	①100% ②全教科	すべての教員が積極的にブリントや視聴覚教材等の補助教材について工夫や 改善を図っている。また、コロナ禍に よる休校中、早い時期からオンライン 授業の教材作成を積極的に進めた。	А	①生徒授業アンケート質問5 (教科書の他、プリントや視聴覚教材等をうまく使っている)に対する評価(②生徒授業アンケート質問9(授業を受けて知識や技能が身についた)に対する評価	①3.4 ②3.3	①3.3 ②3.2	①3.4 ②3.4	指標とした2つの項目以外にも、高い 数値となっており、教員は授業の工夫 に真摯に取り組んでことがわかる。	継続	展させ、さらなる授業力の向上に期待したい。	
材の音		⑬10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果			評価	西審議会資料3に明記			
成	V. 総合的な学力の測定	(3)大学入学共通テストへの参加								大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	83.2%	85%	75.2%	多くの生徒が国公立大学への志望を貫き、 最後まで努力を続けた。目標値には届かな かったものの、高い水準を維持することが できた。	継続	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合が目標値及び前年度実績を下回った要因について、分析をさ	A
		⑥大学入学共通テストの結果								5 教科7 科目受験者における得点率 8割以上の生徒の割合	19.5%	20%	19.9%	目標値をわずかに下回ったが、入試改 革やコロナ禍の中で前年度実績を超え ることができた。進路実現に向けて生 徒・教員が一体となり、しっかりと努 力することができた。	継続	- れたい。	
	VI. 課題研究活動	⑥課題研究活動								課題研究活動を通じて、科学的な調査・分析・整理・発表の道筋を学べたと回答した生徒の割合	92%	95%	81%	成果指標には達しなかったが、課題研究に関する生徒の取組み精度は確実に 向上してきている。	継続	課題研究の質を担保するために、教 材を共有する試みは組織的な取組み として評価できる。そうした教材が 生徒のニーズや実状に合っているも のなのか常に見置しながら今後も課 野球のの実施に置くなりますま	AA
į	t i	⑪コンクール・コンテスト等の成 果								入選数	9本	10本	12本	ロ頭発表がオンラインに変更されるなど例年と 異なる取り組みとなる場面が多くあったが、多 くの発表を行うことにより例年以上の成果をあ けた。	継続	題研究の充実に努めていただきたい。 またコンテストの入選数が前年度実 績・目標をともに上回っており、評 価できる。	
I A	·	⑱英語外部検定試験								1・2年生の12月実施第2回GTEC スコアレポート	CEFR B1:122 人	CEFR B1:100 人	CEFR B1: 168人	1・2年生について12月にGTECを 受検することとし、それに向けて指導 を進めてきた結果、目標を大きく上回 ることができた。	継続	CEFR B1の生徒数が目標値及び前年度実績を大きく上回った。その要因について分析するとともに、継続したレベルアップを期待したい。	AA
		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								スーパーグローバル大学(タイプA トップ型) およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1浪 含む)	85人	80人	71人	前年度の実績および目標を上回ること はできなかったが、継続的な指導を行 い、近畿圏を中心に全国の有力大学へ の進路を安定して実現できている。	継続	スーパーグローバル大学(タイプA - トップ型)およびグローバルサイエ	
	VII. 進学実績	②進学実績								近畿圏難関国立大学(京大・阪大・ 神大)及び医学部医学科への現役・ 浪人合格者数	77人	80人	57人	コロナ禍による安全志向で目標を達成することができなかったが、医学科合格者を4人輩出し、トップ層の生徒は最難関国立大学への合格といった成果を上げることができた。	継続	ンスキャンパスへの進学者数、近畿 圏難関国立大学(京大・阪大・神 大)及び医学部医学科への現役・浪 人合格者数が目標値を下回った要因 について、分析し、改善を期待した	Δ
		②国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	126人	130人	139人	目標を大きく上回り、安定した成果を 上げることができた。合格者は146人 に達しており、国公立大学へのこだわ りを持って挑戦する生徒が多数見受け られた。	継続	い。 一方で、医学部や海外大学にそれぞれ4名進学するなど、多様な進路希望を実現できたことについては、評価できる。今後も生徒の多様な進路	13
		②海外大学への進学								海外大学進学者数(1 浪含む)	0人	1人	4人	目標を大きく上回ることができた。グローバルな視点を持ち、アメリカやイギリス、アジアと世界各地に進学する生徒を輩出することができた。	継続	実現を叶えつつ、進路実績の向上を 期待する。	
			体験刑准路学型为研究室前問	ナンストナナナギ	÷ /+ 65.10	- /士ff今つ	ニモフト	ミにエナナねており	γ =π	(年できる) コロナ		OT to	<u>- 101</u>	ていたために 時吐力	₩.	T	

総合評価

体験型進路学習や研究室訪問などでは生徒が主体的に体験できるように工夫されており評価できる。コロナ前からICTを活用していたために、臨時休業中にオンラインでの授業にスムーズに移行でき、他校の見本となった点は高く評価できる。また、5月以降もオンデマンドの形で講習を11月まで実施していたが、これまでの実践にICTを組み合わせている点も評価できる。今後の一人一台端末に向けて、「新」高津メソッドの構想に期待する。

Α

府立天王寺高等学校

A・・・計画以上 日己評価の基準 C・・・計画以下

資料2-2

事業目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細 単価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
	I. 確かな学力の向上を図る	①自学自習の確立	再編	桃陰セミナーの実施及び部学習の促進 (勉強は学校でする自学自習の習慣づけ)	桃陰セミナー実施回数	190	200	140	休校期間を除けばほぼ計画通り実施 した。	桃陰セミナー参加者の満足度 部学習のべ実施回数	満足度 一 部学習 100回	満足度 80%以上 部学習 50回以上	満足度 95% 部学習 22回	桃陰セミナー:1・2年545名が参加。参加者満足度95%。 部学習は長期休業期間短縮のため実施機会が少なく22回の実施となった。	В	継続	卒業生に質問できる梯陰セミナーに 対する生徒の満足度が高く、生徒の 自主的な学習の支えになっている。	
	- 言語活用力 - KCT活用力 - 読解カリテラシー - 科学的リテラシー - 英語連用能力 - その他	②基礎学力の充実・確立	継続	天高スタンダードの充実(各学年で達成する学 力基準)及び学力育成プログラムの見直し	天高スタンダード達成目標の見直 し、学力育成プログラムの見直し、 自主教材の作成。	自主教材 (国·数·化· 英·創知 I · 研究倫理· ディベ-ト)	各教科より 良き改訂を めざす	作成及び改) 国語、数学、化学、英語、創知I、 ディベートについて自主教材を作成、使用している。	天高スタンダード到達目標の達成率	91%	80% 以上	90.0%	各教科達成率自己評価の平均	Α	継続	また校内留学プログラムの開催形態 は例年と違いものとなったが、参加 者数は増加していることは評価でき る。その要因について、単に開催形	AA
		③英語運用能力	継続	「Road to GL」(5日間校内留学)を実施	校内留学プログラム「Road to GL」の実施	73名	参加者 85名以上	92名	夏休みを短縮したため、課業中の放 課後と土曜日の5日間で実施した。 1年77名、2年15名が参加した。	「Road to GL」参加者の満足度	100%	80% 以上	100%	事後研修で、カナダのSDGsプロジェクト国連ユース大使による講演をオンラインで実施した。	А	継続	態の変更によるものであるのかなど 検証されたい。	
	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④人権意識、共感力の育成	再編	天高育成プログラムで示される力の育成 人権講演会、人権HRの実施	人権講演会、人権HRの実施	講演会等	計画通りの 実施	9回実施	1年人権講話(済)情報モラル(済)いじめ 弱者問題(済)陣がい者理解(済) 2年社会の中の人権(済)ジェンダー(済) 戦争と人権(済) 3年雇用と人権((済)在日韓国人問題(済)	講演会ごとの生徒アンケートによる 満足度	96.7%	85% 以上	97.3%	アンケート平均	А	継続		
	小項目(はぐくみたい力) ・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性	⑤健康と体力と協調性を育む	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 野外生活体験学習、水泳訓練、水泳大会、 金剛登山、徒歩訓練、長距離走などの実施	計画通りの実施	ほぼ計画通 り実施	計画通りの 実施	水泳訓練と 林間学校を 規模縮小し て実施	水泳訓練(規模縮小して実施) 林間学校(日帰り実施) 水泳大会中止(感染防止のため) 金剛登山、徒歩訓練、長距離走大会 は緊急事態宣言で中止	行事ごとの生徒アンケートによる満 足度	94%	85% 以上	96%	学校教育自己診断より「水泳訓練、 林間学校は有意義である」肯定評価 平均	А	継続	行事については、コロナの影響のため、中止等の対応を余儀なくされが、制約が多い中で行った取組みへの生徒の満足度は高い。	A
学校独自	・紛争を解決する力 ・健康・体力 ・その他	⑥日本古来の伝統に触れる (感性の育成)	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 能楽鑑賞、文楽鑑賞	計画通りの実施	計画通り実 施	計画通りの 実施	文楽鑑賞を 実施	能楽鑑賞(1年1月実施予定は次年度に延期) 文楽鑑賞(2年11月実施)	行事ごとの生徒アンケートによる満 足度	97%	85% 以上	95.0%	伝統芸能に触れる貴重な機会であり、文楽では充実した感想文が多数 寄せられた。能楽は2年での実施を 検討。	А	継続		
取組	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす	⑦規範意識の陶冶と自尊感情の育成	継続	学校遅刻者の減少	学校遅刻者数	1609	1800以内	1320	臨時休業期間があったため6月から 集計	部活動への加入率	100%	95%維持	99%	学校教育自己診断99%	Ъ	継続	海外研修ができなかったが、オンラ	
	小項目 (はぐくみだい力)	®高い志の育成	継続	天高育成プログラムで示される力の育成 京都大学研修会、 社会人講演会、学部学科説明会 天高アカデメイア等、可能な範囲で実施。	講演会の可能な範囲での実施回数	天高アカデ メイア 14回実施	天高アカデ メイア 10回以上	天高アカデ メイア 18回実施	代数⑨数式⑩バイオ燃料⑪オートファ A	行事ごとの生徒アンケートによる満 足度	97%	85% 以上	97.9%	18回までの満足度平均	А	継続	インで代替プログラムを実施できた。 また、講演会については、目標値及 び前年度実績を上回っており、評価 できる。 今後も制約がある中で、これまでの	AA
知		③海外セミナーの実施	継続	SSH、GLHS等を活用した海外研修。 (米国シリコンパレー、他) 独自の取り組みによる海外セミナー (台湾)	独自の取り組みによる海外セミナーとして台湾研修の実施を探る	米国、シン ガポール研 修実施済、 台湾研修中 止	参加人数 10名以上	止し、WEB	中 今年度は全ての海外研修は中止 3 WEB交流: ①ホランド パ-ク、台北第一 国際交流委員+ α 60名が交流した。 ②インドネシアとのWEB交流実施	行事ごとの生徒アンケートによる満 足度	97%	85% 以上	82%	オンライン交流参加数(天高) ホランドパーク高校19名 台北第一女子高中32名	В	再編	取組みがアップテートされていくことを期待している。	
識基盤社会	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩研究授業の実施 教員相互の授業見学実施	継続	研究授業を行う。他の教員の授業を見学する。 授業公開週間を設置する。	①研究授業の回数。 ②教員1人当たりの授業見学回数。	①研究授業 18回実施 ②授業見学 7.5回	延べ15回	①研究授業 36回実施 ②授業見学 10.1回	授業力向上を考える会3回実施、他 校からも参加。	生徒による授業アンケート(満足度)	第1回 86% 第2回 87%	80% 以上	第1回 87% 第2回 87%	第1回7月実施 3.49/4.00 第2回12月実施 3.49/4.00	А	継続	「授業力向上の会」は、他校の教員 を招いた画期的な取組みで、こうし	
会をリード	小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発	①教科指導研修会の実施	継続	外部講師による教科指導法向上の講座を開講する。	外部講師による教科指導法講座の回 数。	外部講師に よる教科指 導報講座 のべ11回	外部講師に よる教科指 導法講座 5回		/ オンライン講義(生物、歴史、英 語、数学、化学)、対面講義(国 語)	生徒による学校教育自己診断アン ケート(授業や教材、教え方の満足 度)	92%	85% 以上	92%	学校教育自己診断より 満足できる授業が多い:89% 教材や教え方に工夫:94%	А	継続	た交流を行うことで、天王寺高校全体の授業力向上につながり、大変評価できる。 教員の入れ替わりが加速度的に進んだ中で、新しいアイデアを取り入れ	AA
する人材	• その他	②新採用や経験の浅い教員対象 の研修会	継続	桃陰塾として実施する。	毎回ミドルリーダーによる講師を変 えて実施する。	7回実施	7回実施	4回実施	全4回実施(臨時休業期間があった ため、3回滅)	参加教員の満足度	88%	85% 以上	97.0%	新転任12名を対象に実施	А	継続	ながら、伝統を継承していただきたい。	
育成		③10校が共通で実施する学力調査								学力調査の結果			高平 位	西審議会資料3に明記			大学入学共通テスト5教科7科目受	
	V. 総合的な学力の測定	④大学入学共通テストへの参加								大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	353名中、 328名 92.9%	95% 以上	353名中、 333名 94.3%	5教科7科目受験 333名	В	_	験者の割合は目標値に及ばなかったが、前年度実績から上回っているとともに、高い水準であり評価できる。 得点率8割以上については、前年度	AAA
		(5大学入学共通テストの結果								5教科7科目受験者における 得点率8割以上の生徒の割合	170名 (51.8%)	35%以上		得点率8割以上155名 5教科7科目受験333名	А	継続	実績から下回ったが、高い水準を維持している。	
		⑥課題研究活動								ループリック評価の導入	校内課題研究・大阪サイエ ソスデイ、教科で活用。	における活	教科・創 知、校内課 題研究、大 阪サイエン スデイで活 用	教科・創知での発表で活用。大阪サ イエンステイ・課題研究において活 用している。	В	継続	コロナ禍で制約が多い中でも、科学 技術コンテストをはじめ、多種多様 なコンテスト等に出場し、入資者数 の実績をあげており、大変評価でき	
共通の取組	VI. 課題研究活動	⑪コンクール・コンテスト等の成果								全国規模のコンクール・コンテスト 等の①受験者数 ②入賞者数	①404名+ 3件 ②7名+ 2件	①200名 ②5名	①327名+ 2件 ②2名+ 3件		А	継続	る。ループリック評価についても絶えず、改善していってその成果を他校に普及するような活動にも期待したい。	AAA
	Ⅷ. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験								実用英語技能検定	2級以上 合格者52名	2級以上 保有者300 名	458名	今年度合格 準1級11名 2級35名 既保有数 1級2名 準1級15名 2級395名	A	再編	既存の保有者も含め、より高いレベ ルの資格試験にチャレンシを促す仕 掛けを、今後検討していっていただ きたい。	AA
		⑩スーパーグローバル大学(タイ プAトップ型)およびグローバル サイエンスキャンパスへの進学								スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1浪 含む)	200名	150名以上	179名		Α	-	スーパーグローバル大学(タイプA トップ型) およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数、国公	
	Ⅷ. 進学実績	@進学実績								国公立等医学部医学科進学者数 (浪人生含む)	24名	15名以上	19名		A	継続	立等医学部医学科進学者数について は、前年度実績を下回ったものの、 目標値は上回った。国公立大学現役	AAA
		②国公立大学への進学								国公立大学現役進学者数	185名 (52%)	全体の 40%以上	183名 (52%)		Α	-	進学者数については、前年度実績と 同水準の実績をあげた。海外大学に ついても1名進学者がおり、多様な 進路を実現できており、大変評価で	
		②海外大学への進学								海外大学進学者数(1 浪含む)	3名	受験者を 出す	進学1名	台湾大学(管理学院)進学	A	-	් වි	
			「場	の力」をキーワードに	、生徒の学力や人	間力()向上	、教員	の授業力向上に取り)組んでいるが、	る様な	プログ	ラム	がこれらの向上さ	せて	<u> </u>		

総合評価

「場の力」をキーワードに、生徒の学力や人間力の向上、教員の授業力向上に取り組んでいるが、多様なプログラムがこれらの向上させていることはまちがいなく、是非継続していただきたい。「授業力向上会」では他校にも声をかけ、教員自らが向上心を持ってより良い授業をめざしている点は高く評価できる。教員の交替が大きく進んでおり、これまで積み上げてきたことをどう継承するか、またこれからの課題をどう拾い上げていくかが課題である。今後も日本を代表する公立高校として邁進していただきたい。

AAA

府立生野高等学校

□ ○ 計画以二 日 ○ 計画以二 日 ○ 計画以二 日 ○ 計画以本 日 ○ ・・ 日 ○ ・ 日 ○ ・・ 日 ○ ・日 ○

資料2-7

事業目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績		実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 次年度の 呼価 取組方針	か 評価審議会の評価 計 コメント	評価
	I. 確かな学力の向上を図る 「小項目(はくくみだい力) ・言語活用力 ・にTSE目) ・活路・ボーカー ・ は解力リテラシー ・英語連用能力 ・その他	①基礎学力の定着	継続	1 自学自習時間を増やす取組 2 進学講習の実施	1 (1)学習状況調査の実施 (2)進路HRの実施 2 3年進学講習参加者数	1(1)年3回実施 (2)各学年5回 2 • 3年前期希望者講習 397名 • 3年後期希望者講習 302名 • 3年夏期講習 1017名	1(1)年3回東施 (2)各学年5回 2 • 3年前期希望者講習 400名 • 3年後期希望者講習 300名 • 3年夏期講習 1000名	コロナ関係で未実施のもの以外は産成	* 3年削期布置:	者講習	А	1(1) ・名学年の自学自習時間 ・1年・2年の平日の自学自習時間 1時間未満の割合 2 進学志望達成率	1(1) - 1年前期 76.1分 - 2年前期 70.3分 - 3年前期 70.3分 - 3年前期 180.1分 - 1年後期 81.4分 - 3年後期 216.0分 - 1時間未満(前期) 1年 23.0% - 2年 28.7% - 1時間未満(後期) 1年 34.7% - 2年 19.8%	1(1) ・1、2年 90分 ・3年 180分 ・1時間未満 30%以下 2 達成率 65%以上	1 1年達成率 95.4% 2年達成率 83.0% 3年達成率 106.1% 2 75%	1(1) - 1 年前期 84.8分 - 2年前期 72.1分 - 3年前期 173.8分 - 1 年後期 86.9分 - 2年後期 208.3分 - 1 時間未満 (前期) 1 年29.4% 2 年30.1% - 1 時間未満 (後期) 1 年28.1% 2 年30.8%	A 継続	英語集中講座の参加者数の増加が目標施及び前年度実績を上回っており、評価できる。参加者数が増加し	
		②言語活用力・ICT活用力	継続	プレゼンテーション能力の向上	・プレゼンテーション発表者数(校 内・校外) ・海外サイエンスツアーでの研究発 表	 校内延べ720名 SSH中間発表 校外延べ41名 SSH生だ研究発表会 5名 大阪サイエンスティ 第一部36名 	・校内延べ 720名 ・校外延べ50名	コロナ関係で未実施のもの以外はほぼ達成	・校外 延べ49名		В	・アンケートによる生徒の評価 ・情報収集能力およびプレゼンテー ション能力の向上	・前年度は探究活動に関して 事前・事後の満足度につい て、その伸び率を調べた。 15項目 事前平均67% 事後平均81%	・情報収集能力およびプレゼ ンテーション能力向上したと 感じる生徒の割合70%以上	・満足度 94%	・中間発表会満足度 94%	A 継続	一 に要因を分析し、他の取組み等に応 用するなど、さらなる取組みの充実 を期待する。 自学自習時間については、今後KT を効果的に活用し、家庭で学習でき るコンテンツを充実させるなど、自 学習時間を増加させる仕掛けを検 討するなどさらなる充実を期待す	A
		③英語運用能力	再編	1 英様を利用しての英語運用能力向上 2 英語集中講座の実施	1 連用能力をはかる目安として英検 を活用し、計画的にその向上を図 る。 1年10月、2年1月受験 2 英語集中講座参加者数		1 本年度よりGTECに代えて英検を利用 2 英語集中(グロー/バルリーダー)講 密参加者数 25%増	1、2とも に達成	1・1年準2級以上 69.7% ・2年2級以上即 50% 2 ・英語集中 (グローバルリ・ 講座参加者数 23名(77%)	双得率	А	1 - 英枝2級合格者数 2 - 英語集中講座 (グローバルリーダーズ) 参加者数	- 1年A2レベル以上 99%357名 平均点852/1280 67% - 2年A2レベル以上 97%344名 平均点860/1280 67% 2 - 集中議座参加者 13名	1 ・英検2級取得者数6割以上 2 ・英語集中 (グローバルリーダー) 議座参加者数 15名以上	1 50% 2 23名	1 ・1 年準2級1次合格率89% 度取得者を合わせると93% ・2年まだ 2 ・英語集中 (グローバルリーダー) 議座参加者数 23名(77%増)	A 継続	- č.	
学校独自	II. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	4違いを認め共に生きる力	継続	異文化理解教育の推進	・海外スタティツアー、サイエンス ツアーの参加者数	・スタディツアー 40名 ・韓国文化交流 12名 ・アメリカサイエンスツアー コロナ関係で実施できす ・GLHS所修 1名	•60名以上	-	・コロナ関係で!	実施できず	-	・アンケートによる生徒の評価 (肯定的意見)	・スタディツアー 98% 満足85% やや満足13% ・80%が参加して英語に自 信かついた、100%が英語 への学習意欲が増したと回答 ・サイエンスソアー コロナ 関係で実施できず	• 90%以上	-	コロナ関係で実施できず		コロナの影響により予定していた取 組みができなかったが、次年度以降	
の 取 総	小道はくられたときる力 ・ 其感力性 ・ は感動学を解決する力	⑤共感力、協調性、健康・体力を 育む	継続	部活動・学校行事の活性化	・自治会による部代表者会議及び リーダー議習会実施による所属集団 小の貴献と自己目標追求の姿勢を涵 養・学校行事に進んで参加する生徒の 割合 ・原大会以上の大会出場部数を恒常 的に確保	・部代表者会議 5回表施済み ・リーダー講習会 3月19日実施予定 (コロナ関係で実施できず) ・行事参加率関査 90% ・延べ30部以上	・部代表者会議の開催 6回 ・リーダー講習会参加 65名以上 ・行事参加率調査 85の%以上 ・延べ20部以上	-	・コロナの影響	で各種大会開催され	ਹ ਾਂ B	 学校教育自己診断による生徒の評価(達成感、満足度) 府大会以上の大会出場部数 	- 部活動参加率 98% ・ 文化祭 99% ・ 体育祭 97% ・ 耐大会以上の大会出爆部数 延へ148 (陸上、水泳、女子軟式テニ ス、女子硬式テニス、写真、 囲碁)	・学校教育自己診断による生 徒の評価(達成感、満足度) 80%以上 ・府大会以上の大会出場部数 延べ20部以上	コロナ関係で未実施のもの以外はほぼ達成	・部活動参加率97% ・文化祭 中止 ・体育祭 97% ・陸上郎、男女ソフトテニス郎、写真 郎、柔道郎	B 継続	の取組みでは、制約が多い中で、国内や他の代替プログラムを検討するなど、次年度以降の取組みに期待する。	A
知識基般	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす (小項目(はぐくみたいカ)	⑥規範意識	継続	欠席・遅刻を減らす取組	・教員の一致した指導	・家庭連絡、保護者との連携、一致 した指導を進めた	・保護者との連携及び生徒指導部によ る段階的指導の継続	教員による 一致した指 導実施	校門指導毎朝、別指導	登校指導年間4回、	遅刻特 B	• 遅刻者数	・遅刻者数 延べ1928人	・遅刻者数 延べ1500人以下	総数は減少 したが目標 には届かす	・遅刻者数 延べ1873人	B 継続		
並会をリードする人材の	- 規助意識 - 高い話 - その他	⑦高い志を育む	継続	1 国公立大学へのキャンパスツアー 2 卒業生による講演会 3 リーダー講習会 4 地域清掃等ボランティア活動 5 灯びプロジェクト	1 キャンパスツアー参加者数 2 譲演会の回数 3 講習会の参加者数 4 地域清掃活動の回数 5 灯びプロジェクト参加者数 外部発表会への参加率	1・1、2年夢なび 参加者268名 ・キャンパスツアー67名 2 卒業生による講演会業施 満足度86.4% 3 灯びプロジェクト 参加者38名、発表者オーラ ル5名、ポスター33名 4 PTAと連携した地域清掃実施 2回	1 ・1、2年夢ナビ参加者 300名以上 ・キャンパマップー参加者 100名以上 3 リーダー講習会参加者 65名以上 4 PTAと連携した地域清掃の実施 2 回以上	コロナ関係で未実施のもの以外は産成	・キャンパスツ 大学のみ) 4	⊉ 止		・アンケートによる生徒の評価(肯定的意見)	1・夢なび 80.0% ・キャンパスツアー 100% 4 PTAと連携した地域薄掃 実施 2回第 5 対びプロシェクト ・参加主意 ・ を加ましたいるが をかれる たいるが、 その仕事の内容がよくわかった 96%	1 ・夢なび 85.0% ・キャンパスツアー参加満足 度 94.0%	コロナ関係で未実施のもの以外はほぼ達成	1 1、2年夢なび コロナのため中止 キャンパスツアー 参加者79名 今年度は大阪大学のみ 参加湯度、97.2% 4 (PTAと連携した) 地域溝掃の実施 1 回 体育祭	B 継続	コロナの影響により予定していた取 組みができなかったが、次年度以降 の取組みでは、制約が多い中で、高 い志を育むための仕掛けについ て、再度検討していただきたい。	A
育成	Ⅳ. 教員の指導力向上をめざ す	③授業力の向上	継続	1 校内における研究授業の実施 2 授業の相互参観	1 研究授業の回数 2 相互参観の教員参加率	1 国、数、英、理、音、体で実施 ・公開数12 ・参加者数51 2・参観参加率70.8% ・10月末から11月上旬に授業相 互見学週間の実施	1 各教科1回以上の実施 2 全教員による授業参観参加	1 は増加し たが2 は減 少	・皿空域業の題		В	・授業評価による授業理解度	第一回目→第二回目 1年84.1→86.4 2年81.2→83.7 3年87.4→89.5	1年 80%以上 2年 82%以上 3年 85%以上	全学年 85%以上	第一回目一第二回目 1年88.7%一88.1% 2年89.1%一91.1% 3年88.8%—89.1%	A 継続	授業評価の数値が上昇していること は評価でき、組織的に授業力向上に 取り組んでいる成果が出ている。 一 方に関教育産等の研修への参加 者数が大きく減少したことについて	A
	小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発	9授業力の向上	継続	民間教育産業等の研修への参加	参加者数	延べ68名	30名以上(教員数の約半分)	13名参加	Į.	13名参加 駿台12、他1	С	授業評価による授業理解度	第一回目→第二回目 1年84.1→86.4 2年81.2→83.7 3年87.4→89.5	1年 80%以上 2年 82%以上 3年 85%以上	全学年 85%以上	第一回目→第二回目 1年88.7%→88.1% 2年89.1%→91.1% 3年88.8%→89.1%	A 継続	は、要因を分析し、今後の教員研修 に役立てていただきたい。	
		(3)10校が共通で実施する学力調査	UM .									学力調査の結果		評価者	審議会資料3 1	に明記		大学入学共通テスト5教科7科目受験 者の割合は目標値を下回ったもの	
	V. 総合的な学力の測定	(4)大学入学共通テストへの参加										大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	70.0%	80%	76%		B 継続	の、前年度実績を上回った。一方 で、得点が全国平均(900点満 点)の110%以上の割合は、目標 値及び前年度実績を下回っている。 これらの要因について、分析された	AA
		⑮大学入学共通テストの結果										大学入学共通テストの5教科7科目の受験者の得点が全国平均(900点 満点)の110%以上の割合	63%	60%	54%		C 継続	ν ₀	
	VI. 課題研究活動	16課題研究活動										アンケートによる生徒の評価(2年 の発表を見た1年の満足度)	中間発表会満足度 94%	2年の発表を見た1年の満足 度80%以上	81%		B 継続	科学系オリンピック・コンテスト等 の参加者数が昨年度から大きく伸び たのは評価できる。課題研究活動の さらなる発展のために、引き続き、	С
担通		⑪コンクール・コンテスト等の成 果										科学系オリンピック・コンテスト等 の参加者数	59名	70名	70名	大阪サイエンスデイ27名 数学オリンピック37名 科学の甲子園6名	B 継続	成果と課題を踏まえて、指導して	-
が、一般	WI. 英語運用能力	修英語外部検定試験										英検を利用しての英語運用能力向上 英語集中講座の実施	1年A2レベル以上 99% 357名 平均点 852/1280 67% 2年A2レベル以上 97% 344名 平均点 860/1280 67%	2年英棟2級取得者 6割以上 英語集中講座参加者数 15名以上	1 50% 2 23名	1年 準2級 1次合権率 89% 既取何者を合わせると93% 2年 176人 50% 英語集中(グローバルリーダー) 護座参加者数 23名 (77%増)	A 継続	英語集中講座への参加数が目標値を 上回ったことは評価でき、その要因 を分析し、さらなる改善を続けてい ただきたい。実験については、より 高いレベルの級にチャレンジする仕 掛けを検討していただきたい。	AA
		⑩スーパーグローバル大学(タイ ブAトップ型)およびグローバル サイエンスキャンパスへの進学										スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1浪 含む)	69名	70名	48名		C 継続	スーパーグローバル大学(タイプA	
	Ⅷ. 進学実績	②進学実績										進路希望達成率	74.0%	65%	75%		A 継続	トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数につい ては、目標値及び前年度実績を下 回ったことについて、分析をされた い。一方で進学希望達成率、国公立	В
		②国公立大学への進学										国公立大学現役進学者数	131名	130名以上	142名		A 継続	大学現役進学者数については、日標	
		②海外大学への進学		ナにより様々な制限があ								海外大学進学者数(1 浪含む)	0名	1名	0名		B 継続		

コロナにより様々な制限がある中、校内留学を実施するなど、生徒の心に灯を付ける取組みをされている点は評価できる。また、受験勉強型から課題解決型へと教員の意識が変わってきていることや、教員の授業アンケートの数値が高くなってきていることは、授業力向上の取組みが実を結びつつあるあらわれであり評価できる。令和2年度からSSHに継続指定されたが、開発テーマである課題研究を中心としたSTEAM教育に期待するとともに、生徒がコンテストなどへ挑戦することを後押しする仕組み作りにも期待する。

府立三国丘高等学校 Badfense Arrification British British Bull British Brit

AAA ・・・きわめて高い成果をあげている
AA ・・・高い成果をあげている
A ・・・成果をあげている
A ・・・成果をあけている
B ・・・取り組んでいるが工夫改善の余地がある
C ・・・取相の見重しが必要である 評価審議会 評価の基準

資料2-3

事業目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績目	値 実績	実績の詳細 自i	2 次年度の 面 取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
	I. 確かな学力の向上を図る	1. 基礎学力及び自学自習力の向上	充実	①隔週土曜授業の実施 ②三丘エクセレンス、三丘スタディーハードの 充実 ③成績不振者講習の実施(1・2年生)	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数(実施教科)	・15回 ・93回、 358回実施 ・70回実 施	・15回 ・50回、 200回以上 ・年間60回 以上	・13回実施 ・23回、 261回実施 ・84回実施	・土曜授業実施で単位数を確保、学 力の保障に努める ・発展的な内容などの講習を実施 ・定期考査間に成績不振者講習を実 施して基礎学力の向上を図っている	A	以上行う牛徒の割合 2年	3% · 肯定 年48% 60%以 手52% · 50% · 100	上 1年49% 以上 2年59%		充実	土曜授業や補習等による丁寧でバラ ンスのとれた指導が、進学実績の大	
	・言語活用力 ・ KCT活用力 ・ RCT活用力 ・ 誘摩カリテラシー ・ 科学的リテラシー ・ 英語運用能力 ・ その他	2. 読解カリテラシー育成	継続	④読書指導の充実 ⑤文章要約、文章能力の育成	・読書案内の発行 ・読書記録による指導(1、2年全 員)	• 6回発行 • 4回提出	年間3回学期提出年間3回以上	•7回発行 •1年7 回、2年4 回提出	・「図書だより」を発行 ・読書記録を提出させて日常的な読 書を推奨し、感想文を提出させ点検	A		年14作品 10作品+ブック 問5作品	年年 • 1年8作品 以上 2年7作品	読書量を増加させ、文章力育成に繋 がっている	継続	ラスのこれに言せるが、基子夫領の人 きな飛躍につながっていると考えられる。継続することで、引き続き、 三国丘高校全体のレベルアップを期待したい。 課題研究については、発表機会は減	
	・その他	3. 科学的リテラシー、ICT活用 力及び課題解決能力を育む	充実	⑥「課題研究(CS研究)」などの充実 ⑦ブレゼンテーション能力の向上	・大学研究室の訪問回数 ・CS研究 I ・Ⅱの充実 ・校内外での発表会等でのブレゼン	19回訪問毎週継続実施24回実施	・10回 ・毎週継続ま 施 ・のべ年間1	・O回訪問 ・毎週継続実施 ・16回実施	 実施せず 1年課題研究基礎、2年7-7研究 CSⅡ2回、SSH関係9回、SGP関係3 UWUL2回 	A		・ロ頭が ター発表 以上 ・肯定的 意見が8	· 94回 · 92%	様々な発表の機会や課題研究によって、生徒の問題意識の深化や発表技 術の向上が見られる。	充実	少したが、生徒の肯定的意見の割合 は、引き続き高い水準を維持してい ることは評価できる。 なお、英語の外部テスト受験者数に	AA
		4. 英語運用能力の育成	継続	84技能統合型授業の実施 9英語の特別レッスン	• 実施回数 • 実施回数	• 1. 2年 毎 週実施 • 13回実施	・1,2年 毎週実施 ・文系・理系 のべ10回	• 1, 2年 毎週実施 • 10回	・1年総合英語T、2年異文化理解で 全員に対して実施 ・SGP3回、4技能型4回、 NASA3回	Α		・肯定 3.8% 40人受験 7人 ・GTE 年全員 ・延べ	・82.2% ・実施せず ・70人	4技能型授業を新指導要領に沿う形 で継続して実施していく	継続	一ついては、目標の見直しとともに、 どのように授業改善につなげるかを 検討されだい。	
	Ⅱ. 豊かな感性と、たくまし く生きるための健康と体力 ち	5. 違いを認め共に生きる力の育成 (異文化・国際理解)	継続	⑩海外スタディ・ツアー等の充実 ⑪海外生徒との交流や留学生の受け入れ	・スタディツアー参加人数・交流・留学受け入れ人数	• 126人+2年全員 • 105人	・100人 ・70人	·110人 ·0人	今年度は海外研修の代わりにリーバ大学かうイン 研修を実施、オーストラリア語学研修の代わりに英 検オンライン講座を実施	A		肯定的評価 0% - 肯尔 価10	的評 % 肯定的 価95%	平 4技能型授業や海外大学と連携した 課題研究の成果として、海外進学へ の関心が高まってきている	継続	海外研修は中止せざるを得なかった	
学 校 独	小項目(はぐくみだいカ) ・違いを認め共に生きるカ ・共感カ	6. 違いを認め共に生きる力の育成 (ボランティア活動・地域交流活動)	継続	②地域ボランティア活動への参加	・幼稚園や小学校等の世代間交流 (防災宿泊訓練含む)の参加人数 ・地域中学校と連携した科学教室の 実施	•62人 •110人	・40人 ・のべ100 人	実施せず中止	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大 のためすべて中止	С	・アンケートや感想による生徒の評価 (防災宿泊訓練・幼稚園ボランティア) ・アンケートや感想による参加者の評価 (三男に対機数な)	「一方式 を	・実施せる ・中止	* 今年度は新型コロナウイルス感染症 拡大のだめずべて中止	継続	が、代替のリーハイ大学のオンライン研修は、課題研究と英語運用能力の向上に大きく貢献したと考えられ、評価できる。 様々な行事や取組みに制約がある	A
自の取組	-・紛争を解決する刀 -・健康・体力	7. 健康・体力・協調性と豊かな 感性の育成	継続	③部活動の振興 ④学校行事の充実	・部活動加入促進 ・学校行事(文化祭、体育祭、 芸術祭、マラソン大会)実施	・94.4% ・文化祭、 体育祭等無 事故で実施	・ 95% ・内容充実	・97.9% ・体育祭中 止、文化祭 無事故で実 施	文化祭は1日開催で生徒のみ参加とし、 3年保護者にはかがいで公開	A	・大阪府代表や近畿全国大会への参 加・出場件数 件	丘畿大会12 ・5個	• 3件 • 肯定的愿	コロナ禍でも、学習面だけでなく文 武両道を目標に部活動等でも多角的 に活躍している	継続	- が、引き続き、代替ブログラム等の 検討を継続していただきだい。	
	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす	8. 高い志を育み進路実現を果たす	充実	⑤社会で活躍する卒業生を活用した講座「三丘セ まナ」や各種研究講演会の実施・充実 ⑤東京万面・キャンパスツアーの実施 ⑪大学見学の実施 個医療インターンシップの実施	・講座(講演)の開催回数 ・参加人数	・43回実施 ・17人 ・640人 ・53人	・25回 ・20人 ・450人 ・50人	・25回実施 ・中止 ・中止 ・O人	・三丘セミナー12回、進路関係10回、その 他3回 ・1年京大見学会の代わりに制が 加京大紹介 ビデオ全員視聴	A	大、名大、九大、神大、市大、府大) ・6	156人 (現役10 上) 3人 100% (現役10 上) 10人以 ·肯定的 以上	• 190人	高い志をもち、目標をさげす最後ま で粘り強く頑張っている	継続	コロナ禍のためキャンパスツアーが 中止になる中、代替プログラムを実	
知	小項目(はぐくみたい力) - 規範意識 - 高い志 - その他	9. 規範意識の醸成	継続	⑨遅刻指導の徹底 ②朝のあいさつの奨励 ②リーダーズ研修の実施	教員による校門指導と 担任、教科担当の指導年間12回の実施	・校門指導 を日常的に 実施 ・12回の 実施	・校門指導を 日常的に実施 ・年間12回 の実施		・校門指導や登校指導を校長、教頭、担任等で日常的に実施 ・スボーツリーダーズセミナー1回、救急法購習会1回、キャプテン会議8回	A).45人 168件)	人未 (2,380件)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で特に3年生で登校を控えたり登校時間をすらす生徒が増えた。無理をさせることはできないが、今後も指導を継続していく。	継続	- 施されたことは評価できる。他のプログラムについても、代替等を含めた対応が望まれる。	Α
基盤社会を口	IV. 教員の指導力向上をめざす	10. 授業力向上	継続	図学業収養に向けての取り組み 砂投業観察によるフィードバック 物保護者への授業公開の実施 物公開研究授業及び研究協議の実施 物公明研究授業及び研究協議の実施 変加アクティブラーニングや1 C T機器活用授業の研究 徳他校で実施される研究授業への積極的参加 砂同間教育産業等との連携によるスキルアップ研修参加 加	・全教員が改善シート提出 ・全員にフィードバック ・年間3回実施 ・年間4回実施 ・研修及び授業見学実施回数 ・参加人数	2回全教員提出 ・全員フィード バック ・3回東施 ・3回東施 ・1回東施 ・他校や予備校等 に58名参加	・全教員提出 ・全員フィード バック間3回実施 ・年間3回実施 ・田修4回 見学実施講座10間 座 ・他校や予備校等 に50名以上参加	 今年度は実施せる 教育センター実施 の研修等に参加 ・他校や予備校等に 	教科指導の改善に加え、今年はKT 機器活用のかうかか修に積極的に参加し、校内でも研修会を実施	A	・授業アンケートによる授業満足度 ・8	.80 £	·93.2%	授業の相互見学や改善への取り組みが活発におこなわれており、生徒の A 期待に応えている	継続	コロナ禍において、ICTの活用など 学校全体で議論し組織的に授業改善 を行ったことは評価できる。授業や	
ノードする	小項目(はぐくみたいカ) ・授業力向上 ・教材開発	11. 進路指導力向上	充実	効新旧3年担任を中心とした進学指導研修の実施30各学年業者模試実施後の研修実施32共通テスト分析研修の実施	・実施回数 ・実施回数 ・実施回数	• 1回実施 • 6回実施 • 1回実施	・年間1回 ・年間3回 ・年間1回	• 1回実施 • 8回実施 • 1回実施	担任の進路スキルの向上を図るため に各種分析報告会や研修を実施	A	(宋人、京人、阪人、北人、宋北人、名人、八 大 油大 市大 府大) 101/	156人(現役 上	10/	高い志をもち、目標をさげす最後まで粘り強く頑張っている	継続	講習等で教員による丁寧な指導も難 関国公立大学進学者数の大幅な増加 の一因となっているはず。引き続 き、組織的な授業改善に励まれた	AA
人材の育	・その他	12. 初任者・転入者に対する指導力向上支援	継続	③校内研修の実施	• 研修実施回数	•12回実 施	• 100	• 4回実施	・新着任研修1回、進学説明会への 参加1回、G Suite研修2回など	A	・初任者、転入者に対する生徒の 授業満足度の向上 +2.3	・授業 ケート 回答率 上の向	5定的 1%以 - 1.20%	第1回平均87.8、第2回平均86.6 -1.2%となったが、第1回より平均 値が高く、質の高い授業が実施され ていると判断	継続		
成		③10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果		評価	審議会資料3に明記			
	V. 総合的な学力の測定	(4)大学入学共通テストへの参加									大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合 88.	.0% 85%	• 88.3%	A	継続	大学入学共通テスト5教科7科目受験者の割合、得点率8割以上の割合とも目標値に到達しており、評価できる。今後も目標値の検討も含め、こらなる飛躍を期待する。	AA
		(6)大学入学共通テストの結果									5教科7科目受験者における得点率8 割以上の者の割合	.0% 30%	• 30%	A	継続	2 3 0.0 3/02 2/0.75 3 00	
	and a superior of the	⑥課題研究活動									校外での研究発表グループ数 43:	グループ 30グ	√— 26グルー プ	·SSH関係16班、SGP関係8班、 GLHS1班、WWL1班	継続	コロナ禍の影響もあり目標値には到 達しなかったものの、目標値に迫る 成果をあげている。次年度以降、オ	
, t	VI. 課題研究活動	⑪コンクール・コンテスト等の成果									府や全国規模のコンクール・コンテ スト等の受賞者数	Д 30)	•8人	SGP全国高校生フォーラム(審査 委員長賞)6名、大阪府高等学校芸 術文化祭入選2名	継続	ンラインでの発表も含めて、より積極的な発表やコンテスト等への参加を促していってほしい。	AA
通 の 取 組	TIT	⑧英語外部検定試験									英検2級以上取得者数	30)	・139人	A	継続	英検2級以上の取得者は、目標値を 大きく上回ったことは評価できる。 次年度以降、日標値の検討や、より 高いレベルの資格にチャレンジして いく仕掛けを検討いただきたい。	AA
		⑨スーパーグローバル大学(タイプAトップ型)およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1 浪 含む)	0人 90人	・122人	A	継続	T CALLY CONTROL OF THE CONTROL OF TH	
	TIT 、注译字注	②進学実績						1,353,533			難関国公立大学等(東大、京大、阪 大、神大、市大、医学部医学科)の 全合格者数(現役・浪人)	26人 120.	•165人	A	継続	スーパーグローバル大学(タイブA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数、難関 国公立大学合格者数、国公立大学現	A A A
	哑. 進学実績	②国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数 14	5人 140	・182人	A	継続	役進学者数のすべてにおいて、目標 値及び前年度実績を上回っており、 大変評価でき、その要因を分析され たい。	AAA
		②海外大学への進学									海外大学進学者数(1 浪含む) 3人	1人	•2人	出願中 A	継続		
	•	•		数授から先進的な取組	ひた明子 女衆人	- tv C =	<u> </u>	エーへ	ハアの誰託を問っ	, _г		CCLIZA		り問わりをターケー	W 1/2	<u> </u>	

総合評価

大学教授から先進的な取組みを聞き、卒業生から高校生活についての講話を聞く「三丘セミナー」や、SSHでのTAとの関わりを通して、将来を考える機会を数多く与えていることは評価できるとともに、卒業生のコミュニティが学校を中心に広がっていることも評価できる。オンライ ンの取組みにより結集した教員の力を、今後の授業力向上につなげていただきたい。また、生徒をいかに励まし、チャレンジを後押しするかと いった点は今後の課題である。

AA

府立岸和田高等学校

資料2-10

事業目的	大項目	小項目	今年度の 取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価 コメント	評価
	I. 確かな学力の向上を図る	①・言語活用能力 ・英語運用能力	継続	英語連用能力とコミュニケーション能力の育成 ①GL (グロードルーゲー) 養成プログラム国内版基礎の 実施2GL 養成プログラム国内版発展の実施3GL養成プログラム海外版の実施	• 参加者数	①73名(② は実施でき す)③10名	①2100名以 上 ③10名	-	①③は実施できす。②は3月に基礎、応用併せて実施 予定するが、実施できす。③の代替でアメリカトップ 大学オンライン研修を計画したが実施不可。		アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見) 「英語研修プログ ラムに満足していますか。」	100%	90%以上	-	海外版の代替として3月に国内版とオンラインのプログラムを企画したが、希望者が最高人数に足りす、断念した。次年度は夏に国内プログラムを充実させたい。	-	継続	土曜日や夏期を活用したセミナーの	
	// 小項目(はぐくみだい力) ・言語活用力 ・ ICT活用力 ・ ICT活用力 ・ NEMP	②・学習習慣の定着 ・基礎学力の向上 ・習熟度別の学力向上	継続	自学自習の習慣の育成プロジェクト ・ウ土曜構習(特建ゼミ)・サポート講習(成績不振者)等 ・②土曜午前の学習への取組支援「1年スーパー講習」 継続 ③土曜午後を中心に、ゆうかりホールでの自 習	②参加生徒の数	①土曜等 243回、夏 期261回② 80名③ 2088名	①のペ100回 ②80名 ③1500名	①土曜等、夏 期計267回 ②80名 ③444名	①昨年度との比較では休校等により回数減。動画配信にて実施した講習もあり、2希望者153名、選抜により80名が参加。80%以上の生徒が「参加してよかった」との回答。3分年度は開館日大幅減、距離循保のため座席数限定により利用者減	A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)「講習や千亀利セミナーなど、土曜日の午前は充実し た学習時間を過ごしている。」	56.8%	55%以上	58.6%	全学年において土曜学習を支援し学校全体としてバラ ンスよく取り組めた。1年生は難関大受験に向けた特 別講習「岸高スーパー」を、3年生は様々な到達目標 の講習を多く実施。その他自学自習する環境も整え、 生徒の土曜午前の主体的な学びが促進。	A	継続	工権はいる場合のものにという 実施は、生徒の充実した学習時間に 貢献しており、大変評価できる。 スーパークラスについては、今年度 の進学実績等を分析し、入れ替え制 等を検討するなど、継続して在り方	A
	・その他 	③・ICT活用力科学的リテラシー読解カリテラシー	継続	新たな大学入試で求められる力を育成 ①スーパークラスの設置による学校全体の学習意欲 の向上②「岸和田学びのスタイル」で学年・教科の授 業到達目標を設定③朝読タイムの実施④「岸高手 帳」でのボートフォリオ作成とセルフマネジメント	①参加生徒数 ②目標設定・進捗・振り返りの3回 の教科会議 ③1週当たりの時間数 ④取り組み 生徒数	①80名 ②3回 ③75分 ④991人	①80名 ②3回 ③75分 ④1000人	①2·3年各 80名 ②3回 ③75分 ④950人	①現2・3年生ともスーパークラス所属生徒は定期告 査や横試等で成果をあげている。②教科の取り組みで 授業アンケート結果も上昇。④全校で取り組み。	A A	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)「海外研修やSSH 関連行事など他校にはない教育活動 が準備されている」	92.1%	80%以上	96.2%	実施できなかった行事もあったものの、本校の特色ある活動が生徒にも評価されている。	A	継続	を議論していっていただきたい。	
	I. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④・違いを認め共に生きる力 ・ 共感力 ・ 協調性	継続	①ドイツの高校生とのホームスティによる相互交流(11月)2台湾での姉妹校との鳥類の協働調査(12月)	①バディ人数 ②参加人数	①11人 ②6名	①10名 ②5名	①6人 ②7人	①は実施できず。代替として海外からの留学生との交流を11月に実施。留学生5名。②石垣島に変更して 実施。		アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)「海外研修はいか がでしたか」	97%~ 100%	90%以上	100%	代替で「日本文化体感プログラム」を実施。生徒6名 と海外からの留学中大学生7名が参加し、アンケート 結果は「(非常に)良かった」が100%。	A	継続		
	小項目 (はぐくみたいカ)	⑤・違いを認め共に生きる力 ・共感力 ・協調性 ・社会貢献	継続	地域との交流による学びと社会貢献①岸域幼稚園と の1年を通しての授業での交流 ②岸高祭や学校説 明会の生徒主体の運営 ③海外からの訪問の受入	①参加生徒数 ②岸高祭や学校説明会の参加クラブ 数 ③団体数	①350人 ②8クラブ ③4団体	①320人 ②5クラブ ③3団体	①319名 ②13クラ ブ ③中止	① 幼稚園とは9~10月に変更して実施。コロナ対策 で岸高祭中止。学校説明会実施。在校生不参加、クラ ブ見学は実施。③未実施。	5 В	アンケートや感想による生徒の評価 (肯定的な意見)「学校交流はいか がでしたか」	92.1%~ 100%	90%以上	95,8%	①幼稚園交流は各クラス2学期中の1回にみ開催。2 コロナ種のため岸高祭は中止、学校説明会は教員で進 行。③海外訪問の代替として、地元で留学生との交流 を実施した。参加者の評価は本校生徒、留学生共に官 とんどが「満足した」と回答。次年度も継続の予定。		継続	海外研修ができない状況でも、国内の留学生と交流するプログラムを実施できたことは非常に評価できる。 コミュニケーション講座については、好評の要因を分析し、今後充実	A
学校独包	・健康・体力・その他	⑥健康・体力をはぐくみ、良好な 人間関係を構築	継続	クラブ活動の振興と学校行事の充実 ①クラブ活動の活性化 ②体育祭の実施 ③クラブ リーダー研修の実施 ④コミュニケーション実践講 座の実施	①クラブ加入率 ②体育祭参加率 ③実施回数 ④参加人数	①98% ②99% ③2回 ④320名	①95%以上 ②95%以上 ③2回 ④320名	①98% ②99% ④320名	①ほぼ例年通りの高い水準であった。②無観客実施。 ③未実施。④対面で9月実施。	A	のアンケート感想によるクラブ満足度 「クラブ活動に熱心に参加している。」20行事満足度(肯定的な意見) 「学校行事に楽しく参加している。」3	①94.5% ②94.4%	80%以上	①93.4% ②86.9%		A	継続	に生かしてもらいたい。	
田の取組	Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路 実現をめざす 「小項目(はぐくみたいカ)	⑦高い志での進路実現	継続	高い志でのキャリア構想 ①PT(東大京大等難関大学向け講座)の実施 ② 京大・阪大キャンパスツアーへの参加促進	①実施回数 ②のべ参加人数	①80回 ②104人	①75回 ②80人	①80回 ②85人	①各教科が実施する添削指導や講習に参加。6月開始 のため回数減、定期者査や模試等で成果をあげ、その 学習姿勢は他の生徒の模範になっている。 ②京大は今回実施せず。		アンケートによる生徒の評価(肯定的評価) 「将来の進路や職業などについて、 講演会や説明会を実施するなど適切 な指導を行っている」	94.1%	80%以上	92.9%	3年生の講習や添削指導は2月末まで続く。共通テストも前年のセンター試験より平均点が上がったので、最後まで粘り強く指導する。	A	継続	様々な行事や取組みができない又は	
	- 規範意識 - 高い志 - その他	8・規範意識・主体性の育成・協働性	継続	自他の気持ちを尊重する心の涵養と規律規範の確立 ①合唱コンクール(1年2年)芸能祭演劇(3年) ②生 徒による朝の挨拶運動の実施 ③校外登校マナー指 導の実施	①参加クラス数 ②③実施回数	①合唱1875 ス 芸能祭875入 ②32回 ③70回	①合唱16クラス 芸能祭8クラス ②年30回 ③年65回以上	①167元、芸 能祭中止 ②20回 ③85回	①合唱はボディーパーカッションに変更して実施。3 年芸能祭は中止し、代替に体育祭前夜祭実施。3年を 中心に有志了団体が参加。②自治会執行部が参加③全 教員で指導にあたる。		アンケートや感想による①生徒「文 化祭などの学校行事に楽しく参加し ている」②保護者の評価(肯定的な 意見)「社会人としてのモラルを守 る生徒を育てようとしている。」	①94.4% ②87.8%	85%以上	①86.9% ②83.3%		В	継続	制約がある状況であったが、代替プログラムで対応されたことは評価できる。一方で中止となった取組み等については、国内で同じ目的を達成できるプログラムを模索されたい。	A
		⑨・高い志・社会貢献	継続	グローバルな視野の養成 ①GLHS講演会の実施 ②サイエンスツアーの実施 ③姉妹校との台湾フィールドワークの実施	①実施の時期(4月当初) ②のべ参加人数 ③参加人数(両校の合計)	①10月 ②40名 ③36人	①9月以降 ②40人 ③10人	①- ②- ③7人	①、②コロナの為中止。③石垣島に変更。	В	アンケートや感想による満足度(肯定的な意見)「今回のプログラムはいかがでしたか。」	100.0%	90%以上	3100%	肯定的回答が100%。	A	継続		
知識基盤	IV. 教員の指導力向上をめざす	⑩授業力向上	継続	①公開授業週間の設定 ②生徒による授業評価実施 ③にT機関の活用とAL型授業の導入 ④AL型授業実践&研究協議研修の実施	①教科每に1週間 ②実施回数 ③活用教員数 ④実施回数	①教科毎に1 週間②2回③ 63名④2回	①教科毎1週間 ②2回③60名 ④2回	①教科毎に1週間 ②2回 ③64名 ④2回	①全教科設定。教員は担当教科外の授業も相互に見学 し、授業力向上に役立てている。MCT機器活用は非常 動を含めほぼ全員が活用している。外部講師を招聘し 研修を実施した。		授業満足度(授業アンケート) ・「授業に満足している。」項目3 ~7・「知識や技能が身についた」 項目9		・3.20以 上,・3.20 以上(4点 満点)	• 3.45 • 3.38	授業アンケート2回目は全体的に向上している。	A	継続		
社会をリー	小項目(はぐくみたい力) ・授業力向上 ・教材開発 ・その他	①課題研究の教材開発・指導法の 開発	継続	①2年文理課題研究発表会の実施 ②3年キャリアスタートゼミでの論文作成 ③1年セレンデビティ(課題研究基礎)ノートの作 成 ④ルーブリック評価の作成	①発表本数・口頭発表本数・ボス ター発表数 ②論文本数 ③ブリント教材の枚数 ④生徒への提示回数	①口頭11本 ポスポス ター186本 ②96本 ③10枚 ④6回	①ロ頭9本、ポス ター100本 ②80本 ③20 ④3回以上	①ロ頭発表60 本、ポスター 119本 ②152本 ③20 ④3回	①制限のある中実施できた。Web上にすべての研究の 要約を掲載し研究成果の発信をした。	D A	文理課題発表会などの発表や課題研 究のアンケートでの肯定的な意見	75.1%	75%以上	80%以上	アンケートの結果より、「様々な調査方法等が身についた」「論理的思考力の高まった」「分析力が身についた」と肯定的に回答した生徒は80%を超えた。	A	継続	岸高学びのスタイルを軸に各教員が 1年後を3年後を見据えて授業改善 行ってきた成果が、授業に対する生 徒の肯定的な評価につながってい る。今後、新学習指導要額に向け て、新たな目標限定をするなど、さ	A
ドする人材		②初任者等経験の浅い教員の指導 力向上	継続	①経験の浅い教員向け校内研修の実施 ②経験10 年目の教員の企画による初任者と経験2~9年の教 員の交流研修の実施 ③模試分析会で教科別グルー プワーク実施、現状の課題と今後の授業内容検討	①②③実施の回数	190 220 390	①年間9回 ②年間2回 ③年間9回	①年間9回 ②年間2回 ③7回コロナ で2回中止	初任者と10年目研修生との交流研修は先進的好事例 として教育センターから取材を受けた。模試分析会も 教科を超えて受験指導の研鑚に取り組んだ。		アンケートや感想による教員の評価 ・「本研修で知識は広がりました か。」 J 授業アンケート 授業計画項 目4・「毎時間授業の目標や大切な ポイントを説明してくれる」	• 100% • 3.35	• 90%以 上, • 3.30以 上		研修では若手教員からの発展的な提案も見られた。授業アンケートは1、2回目とも目標を達成している。	A	継続	らなる飛躍を期待したい。	
育成		⑬10校が共通で実施する学力調査									学力調査の結果				評価審議会資料3に明記			大学共通テストの5教科7科目受験	
	V. 総合的な学力の測定	(4)大学入学共通テストへの参加									大学入学共通テスト 5教科7科目受験者の割合	265名 74.4%	75%	221名 71.1%	大学入学共通テスト時点での在籍者数311名に対し、大学入学共通テスト時点での在籍者数311名に対し、大学入学共通テストの5教科7科目受験者は211名であった。	В	継続	者の割合は目標値を下回ったもの の、得点率80%以上の割合は増加 していることは評価できる。スー パークラスの取組みがどのように影 響しているのかについて分析をし、	В
		⑥大学入学共通テストの結果									大学入学共通テストの 5教科7科目の得点率80%以上の受験者数(割合)	26名 7.3%	40名 12.8%	37名 16.7%	大学入学共通テスト時点での在籍者数311名に対し、大学入学共通テスト時点での在籍者数311名に対し、大学入学共通テストの5教科7科目の得点率80%以上の受験者数は37名であった。	В	継続	今後のさらなる飛躍に期待する。	
		⑥課題研究活動									ルーブリックを用いた観点別評価を 行い、研究活動の質の向上と、適正 な評価を行う。	100%	90%以上	100%	1年生セレンティビティ、2年生文理課題研究、3年 生キャリアスタートゼミの課題研究関連科目すべてで ルーブリックを用いた評価を実施。	A	継続	コンクール・コンテストの積極的な 参加により目標値を上回った。 課題研究は、岸和田市との連携を軸 に多様な研究テーマで取り組んでい	
共通の	VI. 課題研究活動	⑪コンクール・コンテスト等の成 果									全国規模のコンクール・コンテスト 等の参加者人数	200名	100名以上		「特に関する高校生の作文」コンクールに86人応 第。大阪府租税教育推進協議会賞1名、岸和田税務署 長賞2名受賞、大阪学生科学賞で最優秀賞(堺市長 賞)と優秀賞を受賞、課題研究の艰果を全国規模の学 会やコンテストに出展した生徒数がの公3名、科学 技術オリンピック予選に出場した生徒がのべ13名	A	継続	ることは評価できる。また、教員の 指導体制についても、組織的な指導 方法が確立され、より充実した課題 研究ができている。	A
知組	VII. 英語運用能力	⑱英語外部検定試験									英語外部検定試験(G-TEC,英検)の目標達成割合	・ CEFR[A2] 99% ・準2級 65% ・2級53%	・CEFR[A2] 以上が80%・ 英検準2級合格 率80%、2級 60%	•「A2」 98% • 準2級 81%、 2級 62%、 準1級 28%	・1.2年生が12月にCTEC 4技能型を受験。626名 中615名がA2以上のスコアを獲得した。 - 英球 係型器を襲)、第1級を36名受験し10名 合格、2級を133名受験し82名合格、準2級を57名 が要験し46名が合格した。2級、準2級の設定目標 を上回るとして、準1級の受験者、合格者が前年度 より増加した。	A	継続	英検準1級の合格者が増加している ことは大変評価できる。既に所有し ている資格から、さらに高レベルな 級にチャレンジする仕掛けについて 研究し、今後も外部資格の取得に チャレンジしていただきたい。	AA
		⑩スーパーグローバル大学(タイ ブムトップ型)およびグローバル サイエンスキャンパスへの進学									スーパーグローバル大学(タイプA トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数(1 浪 含む)	37名	50名	35名	東北大2名、東工大1名、金沢大1名、福井大1名、静岡大1名、京都大3名、大阪大15名、神戸大9名、九州大1名、東京理科大1名		継続	スーパーグローバル大学(タイプA	
	WI. 進学実績	@進学実績									国公立大学&主要私大(早稲田・慶 応・上智・東京理科大・MARCH・ 関関同立・同女・薬学部・歯学部・ 医学部)現役進学者数	221名	200名	230名	下記の国公立に加え、私立大で中央大1名、東京理科大1名、明治大1名、同志社大16名、立命館大10名、関西大30名、関西学院大23名、私立薬学部13名など	A	継続	トップ型)およびグローバルサイエ ンスキャンパスへの進学者数は目標 及び前年度実績を下回った要因につ いて、分析されたい。一方で、国公 立大学と主要私大の現役進学者が前	A
		②国公立大学への進学									国公立大学現役進学者数	129名	-	134名	京都大1名、大阪大13名、神戸大9名、大阪市立大 28名、大阪府立大16名など	A	継続	年度実績を上回り上昇傾向にある。 これらを要因についても分析を重 ね、高い水準を維持できるよう、粘 り強い指導を今後も期待する。	
		②海外大学への進学									海外大学進学者数(1 浪含む)	1名	1名以上	0名	海外大学志望者2名いたがコロナ禍のため断念。	-	継続		
			胡の	読書活動は読解力向上や	幅広い知識の獲得	事につた	たがり証	価でき	きる。また、岸高手帳を	を進	帯さけセルフ・マ	マネジン	メントを	を音語	Wさせる取組みは自主性	ちき	言め		

朝の読書活動は読解力向上や幅広い知識の獲得につながり評価できる。また、岸高手帳を携帯させセルフ・マネジメントを意識させる取組みは自主性を高めるうえで有効であり、評価できる。スーパークラスが設置され初めての卒業生がでるが、検証を行い、次に生かしていただきたい。生徒の自己実現のため、自習環境の整備など実施されているが、モチベーションを高く保たせたり、卓越した生徒を育成するさらなる仕掛けを期待する。